

インターカルチャー

INTERCULTURE

NO.111

2007年5月号

MAY



■■ 学校法人 千里国際学園 Senri International School Foundation (SISF) ■■

千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) 併設 大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号 TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055 URL <http://www.senri.ed.jp>

14期卒業生 93名巣立つ
多彩な卒業生進路状況
7ヶ国語で宣誓 第17回入学式
高等部学年旅行沖縄
英検準1級に3名合格
APAC Theatre & Band Report



2007年4月撮影 航空写真

インターカルチャ

大迫弘和
SIS 校長

ある日新幹線に乗っていると、すぐ近くに座っていた小さな男の子が窓の外を見て叫んだのでした。「あ、新幹線！」。男の子は自分が今新幹線に乗っていることを忘れ、すれ違う新幹線に歓声を上げたのですが、何か不思議な感じと、羨ましくするような純粋さを感じました。

それと同じように(?)今回は「インターカルチャ」の中から「インターカルチャ」を眺める試みをしてみようかと思いません。眺めるのは「インターカルチャ 111号」に校長としての49回目の巻頭言を書こうとしている私、眺められるのは「インターカルチャ」の前号110号、2007年3月発行。

まず表紙です。ご存知の方も多いと思いますが「インターカルチャ」は学園のホームページに掲載されています。ホームページでは少し前から表紙の写真はカラー版になっています。生徒たちの表情が一層輝いて見えます。

ホームページといえば先ごろ海外から帰国された保護者の方からこんな評価をいただきました。

「SISのホームページは非常に情報量が豊富で、学園の教育のことがかなり分かりました。情報量の豊富さは自信の表れとも感じました。」

ホームページもまだまだこれからより高いレベルのものにしていければと考えていますが、現在の状態でもかなり充実していると思います。特に帰国生徒の受け入れという本校のミッションから言うと、遠く海外にお住まいの皆様へSISに関する情報を刻々お届けできるというまさにインターネットでしか可能でないことが行えるのですから、なにより大切にしていかなければと思います。

110号のページをめくります。巻頭言はとばして、次の「卒業生へ贈る言葉」を眺めます。ここで先生方が卒業生たちに祝福をこめて贈っている言葉たちと、ページを更にめくって14-15ページにある「学年だより」の先生方の言葉たちに、私ははつきりと通底するものがあると感じるのです。それはSISの先生方が生徒達に対し惜しみなく捧げる愛情、先生方の熱意、先生方の教育に携わる者としての誠実さです。

SISという新設校、しかも前例のない、先を走るものがない新しい試みに挑戦してきた学園が、16年という短い時間でここまで成功を収め、高い社会的評価を得るに至れたのは、なによりこのような愛情と情熱と誠実に満ちた先生方によって教員集団を形成できたからです。

次のページは2月に行われたオールスクールプロダクション(ASP)「アニー」でStudent DirectorとStage Managerを務めた10年生村上さくらさんの報告文とたくさん写真。手元にある「アニー」のプログラムでそこにある生徒の名前を数えてみました。SIS/OIS合わせて約210名。確かにこれはオールスクールの名にし負う、本校ならではの取り組みです。しかし、忘れてはならないのは、ASPもその発表を観てくれる生徒たちがいなければ成り立ちません、そしてその観客となってくれた大事な生徒の名前はどこにも書かれていません。

名前が出ない。この「インターカルチャ」にも同じことが言えます。SISの様々な教育活動を伝える「インターカルチャ」はSISの明るく華やかな一面を伝えていますが、SISが大切にしているのは勿論それだけではありません。確かにSISは国際学校としての煌(きら)びやかさを持つてはいますが、毎日こつこつ地道な努力を続け、やるべきことひとつひとつをしっかりと着実にこなしている、そんな誠実な生徒達、「インターカルチャ」に名前は出ませんが、そのような生徒達のことを何よりも大切に、またそのような生徒達のことを誇りに思っているのがSISです。

「インターカルチャ」110号のページを更にめくっていきます。UWCに行った杉原翔君の元気なレポート(「学校には私を含めて日本人は4人、みな関東出身で私は東京弁に汚染されつつあります」というまさに関西っ子一級のユーモアに、東京生まれの私は苦笑。)、8年生(現9年生)のLHRでの「ハンディキャップについて考える」取り組みと続きます。

次に連載を続けている難波和彦先生の「バイリンガリズム通信」、今回は社会科のDatta先生のこと。Datta先生の「凄さ」に校長として改めて感動と敬意と感謝。

ここまでで110号のやっとなり半分です。紙面が残り少なくなり残りの半分には触れることが出来ない頭でっかちの原稿に

なっていました。仏検・独検・中国語検、ナースから、図書館から、APAC報告……、といった具合にページをめくっていくと次々とSISで流れている濃密な時間を伝える記事が続きます。その一つ一つに関しどうしても皆さんにお伝えしたいことが頭を過ぎります。例えば「インターカルチャ」には必ず「図書館」からのページがあり、それが時に数ページにわたる量を占めるような校内誌を持つ学校が日本にどれくらいあるでしょう。

「SISの学習の中心は図書館である。生徒には自ら進んで図書館に足を運ぶような生徒に育てたいし、また生徒が自ら進んで図書館に足を運ぶようになるような授業を行ってほしい。学習の中心である図書館は、よって玄関に入ってすぐ、学園の中心部に置かれる」という考え方でSISは開校以来ずっと進んできたということなどは、是非知っておいていただきたいことです。

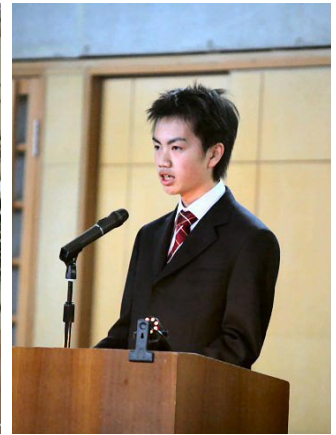
あとひとつだけ「保護者会だより」にはどうしても触れておきたいです。卒業生の淵口紗彩さんが「現在通っている慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)は、まるでSISです。」となんの銜(てら)もなくストレートに書いている記事を含めて、今回も「保護者会だより」は充実の5ページです。SISの現在の成長は、保護者会の皆様のご協力あってのことと、本当に心の底からありがたく思っています。どのようなくも学園を信じ、応援し、支えてくださっている。保護者と学園が力を合わせて進んでいくことにより、学園が子ども達にとってどんどんよい場所になっていく。大人たちの協力が子どもを支える。SISの保護者会はそのことを深く理解し、そしてそれを行動で、身をもって実現しようとしていらっしゃいます。SISは教育の様々な面で日本の教育界にモデルを示していると思いますが、SIS保護者会の姿も、それは日本の教育を再生させるモデルであると実感しています。

この「インターカルチャ」自身、保護者会のバックアップでこのように作成を続けることが出来ているのです。

年6回(各学期に2回)、「インターカルチャ」はSISの生徒達の息吹を乗せて皆様の下に届きます。最後にその作成にいつも忙しかつていらっしゃる馬場先生そして合志先生に御礼を申し上げます。

第14期卒業生93名巣立つ

3月3日(土)千里国際学園体育館にて、高等部第14回卒業式が挙行されました。卒業生は、多くの保護者、在校生、教職員が12年生の旅立ちを祝福しました。スポットライトを浴びながら赤いじゅうたんを歩き、壇上で校長先生から卒業証書を受け取る時には、卒業生の一人ひとりが自分で選んだ写真がスクリーンに映り、自分だけのBGMが流れました。それぞれに個性が出ていて、卒業していくにあたっての気持ちがよく表れていたと思います。新たな一歩を踏み出す卒業生のその輝かしい未来に幸あれと願っています。



卒業生進路一覧

進路情報室

多彩な進路		2007年4月16日	
2007年3月卒業生の進路			
分野(学部・領域・地域等)		人数	所属(学科・学校等)
海外	アメリカ合衆国	2	(Univ. of Michigan) / (Univ. of California Santa Cruz)
	イギリス	1	(Univ. of Wales)
	カナダ	1	(Univ. College of Fraser Valley)
	台湾	1	台湾芸術大
	海外の大学に進学予定	4	中国 / カナダ / イギリス / アメリカ合衆国
理数系	工学部	2	(東京理科大) / (同志社大)
	理工学部	5	(立命館大 5)
	理学部	2	数学(東京工業大) / 生物(神戸大)
	医学部	1	(旭川医大)
	歯学部	1	(大阪歯科大)
	薬学部	1	(摂南大)
	農学部	2	(鳥取大) / (香川大)
	情報	3	総合情報(大阪電気通信大) / (関西大) / 情報理工(立命館大)
語学系	外国語学部	7	ロシア語(大阪外大) / スペイン語(大阪外大) / フランス語(京都外大) / ポルトガル語(京都外大) / 英語(上智大) / (神戸市外大 2)
芸術系	芸術学部	2	(沖縄県立芸術大) / (東京芸術大)
	音楽	4	演奏活動 / 器楽(大阪音楽大) / (東京芸術大) / (神戸女学院大)
	デザイン	2	(桂学園デザイン専門学校) / (大阪樟蔭女子大)
	ファッション	2	ファッション造形(神戸ファッション造形大) / 服飾学部(杉野服飾大)
教育系	幼児教育	1	(四天王寺国際仏教大)
総合系	総合政策学部	8	(関西学院大 6) / (慶応大 2)
	文化情報学部	1	(同志社大)
国際系	国際関係	3	Dual Diploma(立命館大) / (立命館大 2)
	国際教養学部	2	(上智大 2)
社会学系	社会学部	5	(関西学院大 5)
	アジア太平洋マネジメント学部	2	(立命館アジア太平洋大 2)
	コミュニケーション学部	1	(大阪国際大)
	キャリアデザイン学部	1	(法政大)
経済学系	経済学部	1	(京都産業大)
	政治経済学部	1	(早稲田大)
	商学部	2	(関西学院大 2)
法学系	法学部	3	政治(関西学院大) / 法律(関西学院大) / (立命館大)
人文系	文学部	7	(関西学院大) / (神戸女学院大) / (同志社女子大) / (関西大 2) / (慶応大) / (大正大)
	人間学部	1	(京都文教大)
生活・文化 / 実務系	美容	4	実務 / (関西ビューティプロ専門学校 2) / (ヴェールルージュ美容専門学校)
	調理	1	(関西調理師学校)
未定	大学進学予定	6	
全卒業生の合計		93	2人以上の場合は学校名のあとに人数を示した
過年度生の進路			
分野(学部・領域・地域等)		人数	所属(学科・学校等)
理数系	工学部	2	機械(電気通信大) / (徳島大)
語学系		1	(京都外大)
芸術系	映像学部	1	(立命館大)
総合系	グローバルメディア学部	1	(駒沢大)
経済学系		2	政治経済(早稲田大) / (立命館大)
法学系	法学部	2	(関西大) / (大阪市立大)
過年度生の合計		9	

7カ国語で宣誓

第17回中等部高等部入学式

中等部・高等部第17回入学式が、4月4日（水）に本学園の体育館で挙行されました。今年中は庭の桜がちょうど満開でした。音楽科森路佳先生の指揮による華やかなバンド演奏と大きな拍手に包まれて、64名の中等部入学生と、83名の高等部入学生（内部進学者70名含む）が入場しました。

大橋太郎理事長・学園長、福田國彌副理事長、OISキャフィン校長から心温まる祝辞をいただきました。大迫校長のお話とともに、しっかりと新入生、編入生の皆さんの心に刻まれたことと思います。

毎年恒例の生徒宣誓は、7ヶ国語で行われました。坂下勇仁さん（7年：日本語）、檜木耀さん（7年：スペイン語）、孫正協さん（7年：韓国語）、田中輝樹さん（7年：中国語）、前田優衣さん（7年：英語）、セマコーワ・エリザベータさん（10年：ロシア語）、山下花波さん（10年：タガログ語）の7名が、堂々とそれぞれの言語で、世界人権宣言の精神に基づいた生徒宣誓を行いました。最後に中等部生徒会、高等部生徒会からとても楽しくユニークな歓迎の言葉があり、SISを新入生、編入生にしっかり紹介してくれました。



春学期入学帰国生等内訳

入学センター

《国別》

アメリカ	9
中国	4
シンガポール	4
イギリス	3
オーストラリア	3
キューバ	3
韓国	2
香港	2
イタリア	1
タイ	1
ロシア	1
パナマ	1
フィリピン	1
国内外国人学校	1
国内インターナショナルスクール	6
計	42

《学年別》

7年生	25
8年生	1
9年生	4
10年生	10
11年生	1
12年生	1
計	42

異動のお知らせ

■新任

牧百合子 (国語科)

本年度から国語科非常勤講師としてお世話になります牧百合子です。前任校でも中学生と高校生に国語(現代文・古典)を教えていました。クラブは、吹奏楽部の顧問をしておりましたが、管楽器・打楽器は扱えません。ですので、弦楽部と合同でオーケストラをする際にはバイオリン譜をいただいて、バイオリンでクラブ活動に加わっていました。生徒から「先生も何か吹奏楽はじめたらどうですか?」との誘われたものの、吹奏楽部らしいことは習得しないまま、千里国際学園にやってきました。学生時代にはじめた茶道は今なお趣味で続けています。昨年度は縁あって小学校の総合学習の時間に講師として(と言いましても、若造の私は生徒に付いて補助をするのが主なお仕事でした)裏千家茶道を教えに行っていました。

今現在、一番の趣味としましては、一度読んだ本をあえて読み直すこと、です。色々な本に出会ってきたなあと思いがら改めて読むのですが、特に山本周五郎を読んで涙を流し、池波正太郎を読んで深い台詞に心打たれています。これからこの学園での新たな出会いを楽しみにしています。どうぞよろしく願いいたします。

杉本早季子 (国語科)

はじめまして。杉本早季子です。春学期の間、千里国際学園中等部・高等部でお世話になります。教科は、国語科です。この学校に来る前、学園のホームページで、生徒の皆さんが生き生きと楽しそうに学校生活を送っている様子を見てから、皆さんと会えることをとても楽しみにしていました。春学期が始まって何日かが過ぎましたが、ホームページを見た時の印象と感動が今でも同じように続いています。授業については、まだまだ失敗と反省の連続ですが、少しでもいい授業ができるよう、勉強の毎日です。3ヶ月という短い間ですが、皆さんと共に成長していけるように、精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

宗正久志 (社会科)

はじめまして、今年から社会科を担当します宗正久志と申します。出身は山口県ですが、大学は京都、大学院はアメリカのオレゴン州でしたので、関西のことや外国で暮らすことなどについてはそれなりに知っているつもりです。大学、大学院と教育学(特に異文化理解や国際理解)について勉強してきたその成果をここで十二分に発揮していきたいと思います。持ち前の若さとガッツで頑張っていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願います。

長谷川輝義 (数学科)

初めまして。四月から教壇に立たせてもらっている長谷川です。実は、私は教壇に立つのは初めてでそのことについてのとまどいや驚きはありますが、それ以上にこの学校の特殊さが印象強いです。入学式では本当に新入生を歓迎しているという様子がとても印象深かったです。最後に、私については、いくつか好きなものを書かせてもらいます。好きな俳優は真田広之、好きなマンガはろくでなしBLUES、憧れの女性は酒井美紀、あまり本は読みませんがミステリーやSFが好きです。

平田一恵 (保健体育)

みなさん、もう私の顔は覚えてくれましたか。私は昨年まで、市内にある中高一貫の私立校に9年間勤めておりました。環境も校風も全く異なるこの学校での生活は、今の私にとってとても新鮮です。一番気に入っていることは、先生方や生徒のみなさんの表情がとても明るいことです。よろしく願います。

■休職

野島大輔 (社会科)

学園コミュニティの皆様へ

創設以来15年間にわたり教員として学園に奉職して参りましたが、この度国際理解教育に関する研修と充電等のため、しばらくの間、無給の休職期間を頂戴することとなりました。これまで在勤中にお



前列向かって左より牧先生、杉本先生、後列左より宗正先生、長谷川先生、平田先生

世話になったすべての方々のご厚情に、大きく感謝いたしております。ご理解をお願いしますと共に、ご挨拶をさせていただきます。

■退任

Kelly Welch (Librarian)

This year's sakura season marks the end of my stay here at OIS, and I am writing to express my gratitude to the SIS community for making me welcome during my time here. It has been an extremely rewarding experience as I have made many new friends and learned a great deal. Please accept my best wishes for all success and happiness in the future.

森香奈子 (国語科)

鷹野由紀子 (国語科)

佐伯昭洋 (数学科)

東 千歳 (体育科)

■復職

北尾友美 (国語科)



世界で一番濃い旅行in沖縄

洪 知仙

旅行委員長、高等部3年

私たち12年生は3月15日から19日にかけての4泊5日間、沖縄へ学年旅行に行きました。行き先は石垣島、竹富島、西表島、本島と沖縄の良さを丸ごと満喫できるようなプランです。現地では旅行委員と阪急交通会社の宍井さんなどを主としたメンバーで組み立てた休む暇もないほどとても忙しいプランでした。私たちが住んでる街ではなかなか見れない牛が普通にいたり、初めてこんな美しい海をみる！ってほど美しい海へ行っ

てみんなとはしゃいだり、自然壕では暗闇体験をして沖縄戦争の人民達の辛い経験などを肌で実感できたりもしました。またパイナップルハウスではみんな思い思いに試食をしまくり、店の人に「…もう、ええかな？」と言われる始末でした。(私の事です…はい、すいません) また西表島では3グループ(カヌーコース、トレッキングコース、水牛&クルージングコース)とも、とても西表島の自然を満喫しました。竹富島に泊まった子だけだったのが残念ですが、竹富島では地元の方々と交流会もしました。最後はおばあに沖縄舞踊を教えてもらいみんなで踊るなどと、とても楽しいひと時をすごせました！夜レク担当のみんなが考え出した夜の催し物も毎晩笑いの絶えない素晴らしい物となりました！ほかにここには書き表せないほどたくさんのことをしましたが、とにかくこの5日間、楽しい思い出でいっぱいです。全員が満足出来る素敵な旅行になったと思います。なによりも全員が無事に怪我もなく帰って来れた事がなによりも良かったポイントだと思います。

この素晴らしい旅行にするまでの道は決して楽なものではありませんでした。旅行委員会は6月に各クラスで3~4人ずつ集まって結成された団体です。その中でも私は旅行委員長という役を任せられました。この委員会はどのようなものかという…旅行に行くまでの間は学年のみんなの意見をまとめて、宍井さんや先生と相談しながら、行き先の決め方、プラン、



部屋割りをどうするか？、保護者向け説明会でのプレゼンテーション、しおり作り等等、細かな事まで念入りにやっていました。また現地では消灯&起床チェック、点呼などなど、とてもやるべき事が多いけれども、その分とてもやりがいのある事だと思います。この旅行を成功させるまで忙しい中ミーティングもたくさんあり、みんなで言い争ったり喧嘩もいっぱいしたりしました。時には泣いたりもしました。その時元気をくれたのはやっぱり旅行委員のメンバーでした。私もこのメンバーじゃなかったらこのように旅行を大成功させることは出来なかったかもしれません。それほど私にとって、また、みんなにとっても旅行委員の存在は大きいのでした。このメンバーでこの半年間一緒に頑張ってきて、笑ったり、たまにはぶつかりあったりしていくうちに、いつの間にか強い友情で結ばれていたと思います。私自身もリーダーシップの大切さ、大変さをたくさん学びました。旅行委員のりみ、萌子、れいか、佐織、馬場ちゃん、翼、ひろお、たみい、圭、よしき、ゆっこ、あやか、たくま、みほ、しゅんすけ、ともたか。今まで大変な事も辛い事もたくさんあったけどみんなと出来て本間に最高やった!! おつかれさま♪

もちろん旅行委員だけが頑張った訳ではありません。これまで半年間、初めはどうしようもないほど未熟だった私たちをずっと助けてくれた志垣先生、土佐先生、宍井さん、野崎さん。本当にありがとうございました。また弥永先生、教頭先生、

馬場先生、池田先生、ホテルの従業員のみなさま、竹富で出会ったみなさま、保護者の方々、神戸空港まで見送りに来てくださった校長先生、バスガイドさん、地学室を提供してくれ、時には励ましてくださった田中先生、ホッチキスを貸してください「最高の旅行にしてね」と励ましの言葉をくださった高橋先生、Tシャツ会社のみなさま…みんな本当にありがとうございました!!

また夜レク(夜のレクレーション係)のみんなも本当におつかれさま。「学年を盛り上げよう」という一心で期末期間にも関わらずミーティングなり、練習なりたくさんしていた成果がそのまま現れるほど最高の夜を過ごせました。このように旅行というものには一人で、又は、旅行委員だけで成り立つようなものではありません。みんなの協力があってこそ「大成功」という三文字で締めくくることができました。みんなありがとうございました。

この旅行を通じて、みんなの心に「学年を愛する」という気持ちが少しでも成長したと思います。この旅行を通じて私たち新12年はとても団結した学年になったと思います。この調子で残り1年間ももっとSISで楽しい思い出を残していきましょう。そしてここで宣言しちゃいますが、スポーツデイは必ず12年が優勝させてみせます!! みんな一緒にまた沖縄へ行けたらいいな★

Marist 2007 MUN

Mark Avery

SIS MUN Coordinator, English

The MUN was a little smaller this year with 130 delegates from eight schools across Japan. SIS had 10 delegates; Tomoaki Mizoguchi–Austria, Shunsuke Kiuchi–Belarus, Yasuko Tahara–Fiji, Haruka Arai–Ghana, Kayoko Hirota–India, Yoko Nishiki–Israel, Eri Sano–Mexico, Jumi Wada–Senegal, Yukiko Imagawa–Serbia and Erina Usui–Uzbekistan. Before the meeting, we were fortunate to have Ms. Mogjan Sami, a Project Officer from the World Health Organization, come and to speak to the students. She focused on global problems and used current statistics to emphasize the urgency of finding solutions. We were all amazed at how much progress has been made in the development and availability of drugs to treat HIV. She also presented some examples of diplomatic problems that hold up prog-

ress. This year's topics were AIDS and HIV, Child Labour, Immigration, Energy Conservation and Women's Rights. Again, the topics were very broad and so resolution writing required a lot of sifting through copious amounts of information that is available on each topic. Most of the students are already reasonably aware of the problems when they enter the course but they must bring themselves up to date on how the problems have already been addressed. This means going through pages and pages of United Nations documents, including treaties that have been drawn up at regional meetings. Despite all the efforts that have already been made at international and local levels, the students were able to identify areas that still need attention and then decide upon short and long term solutions which they incorporated into their resolutions. On the final day, there was the emergency crisis. This year, it was



a Kurdish uprising near the border of Turkey and Syria. Students from SIS who were able to be given leadership positions at this year's MUN were Eri Sano who was General Assembly Secretary on day one, and Erina Usui who acted as regional secretary for the European bloc meeting. As the delegate of Ghana, Haruka Arai participated in the Security Council meeting that drew up the emergency crisis resolution. The MUN was a great success and as always, the SOIS students were complimented on the way they conducted themselves over the three days.

フィールド改修と駐輪場の新設

学園のフィールド改修工事と駐輪場の新設工事が、春休み中に行なわれました。フィールドは、より安全で美しいハイテク新素材で覆い直されました。一度靴を脱いで走って、その感触を確かめてみてください。

新しい駐輪場は、カフェテリアのすぐそばにできました。これにより、従来の駐輪場の混雑を解消することができ、また西方向から登校している生徒にとって、以前より駐輪場が近くなりました。



道草学園という学校

鷲尾 崇

彩都学生会議代表、第11期卒業生、大阪大学人間科学部4年

今年の3月末、「道草学園」という小さな学校が生まれました。2月半ばから数週間にかけて、校内の所どころでこの名前を見かけた人もいます。突然現れたよくわからないもの、という印象があるかもしれません。実はこの道草学園は、SIS 卒業生が集まって計画した1つのプロジェクトだったのです。今回は、どんな学校をなぜ作ろうと思ったのか、そして実際にそれがどんなものになったのかについて、スペースを少しお借りしてお話しさせて頂こうと思います。

「道草学園」の大きな特徴は2つ。1つは、授業をする先生が現役の大学生だということ。もう1つは、学校の教室が彩都の里山の自然だということです。この2つの特徴があることには、ゆずれない理由があります。

まず1つ目に、なぜ先生が大学生なのか。SISを卒業した人達は今、大学やその他の場所で授業や活動を通して色々なことを知り、感じ、考えて、学んでいます。この大学生が経験している「学び」が実は、かなり面白いものなのです。現代の日本人の多くは高校を出て大学に行きます。将来にちゃんとした仕事を得るため、ということももちろんありますが、大学生が勉強する理由はそれだけではありません。大学には、「学び」を心から楽しんでいる人がたくさんいます。それは仕事とも遊びとも違う、けどそれと同じくらい人生にとって大事なことで、同じくらい面白いものです。学んでいることは違っても、卒業生たちはそれぞれの学びを楽しみ、そして感動しています。今まさにそれを体験し始め



た大学生だからこそ、「学び」の感動を新鮮なまま伝えられるのではないかと、というところから道草学園は出発しました。

2つ目に、なぜ里山の自然の中でやるか。大学生が教える学校ならば都会の教室でもできるのではないかと思う人もいます。実は、道草学園にとって山の自然も、「教室」でしかないと考えています。でもその教室にあるものは、全てが授業の材料になります。周りに生えてる木や竹を切ることもできるし、掘り返せる地面があるし、焚き火もできるし、根っこにさえ気を付ければ100m走だってできます。ただ座って話を聞くだけでもその授業は、風や小さな音、太陽の光や地面のにおいに包まれた授業になります。都会の教室にはないたくさんの教材があり、五感を最大限に使った授業ができる里山の自然の中だからこそ、道草学園の授業には無限の可能性があるので

3日間に渡った道草学園では、全部で7つの授業を行いました。実際にどんな授業があったか紹介していきます。まず、建築学を学んでいる高橋智彦(12期卒)による授業では、「神聖な空間」や「自分の部屋のような空間」を作りなさいという課題が与えられ、木を切り穴を掘り、それぞれが考えた空間を作り上げました。次に、法学を学んでいる新見真史(12期卒)の授業では、彩

都の山での決まりごとを彩都法という法律にして、山で起こる人と人のぶつかりを「彩都法を使った」裁判の中で解決することを体験しました。今年度から社会学を学ぶ井上裕子(14期卒)の授業では、昼食と食事をする場所をみんなで作って一緒に食べることで、彼女の考える“食を通してのコミュニケーション”を体感しました。生命科学を学ぶ左海知里(11期卒)の授業では、山にあふれている葉っぱの“Programmed Cell Death”という話を出発点にして、自分達を取り囲む生命について考えました。福地智幸(12期卒)の授業では彼が大学で学んでいることから少し離れて、山でかくれんぼというシンプルな遊びをやることで、本気で遊ぶ楽しさを感じよう・・・と計画していたのですが、あいにくの雨。考えた結果、山にいくらでも生えている笹でお茶が作れるということ、実際に作って体験しました。日本画を学んでいる小島聖子(12期卒)の授業では、“山の住人”を想像して、大きな布1枚を使ったアート作品でその山の住人を1人1人が表現しました。小学校の教師を目指している加賀奈穂子(12期卒)の授業では、山の写真を撮って詩をつける、という自分と向き合う体験をして、更に加賀奈穂子という“授業をする人”がどうしているのかということにも触れました。全ての授業をそれぞれの先生が0か

(次ページ★に続く)



Spring Science Camp 2007

松原由佳
高等部3年

「じゃあ、白衣を着てみてください。」と自己紹介の後言われ、すぐに実習が始まりました。私が参加した山形県鶴岡市にある慶應義塾大学 環境情報学部・先端生命科学研究所で行われたスプリング・サイエンス・キャンプではいつも時間に追われていたように思えます。実習は大きく5つに別けて、「DNA増幅と電気泳動」、「大腸菌の形質転換」、「メタボローム技術を用いた代謝物質測定」、「代謝シミュレーション」、「バイオインフォマティクスによるDNA解析」、が次から次へと行われました。最初は使い方がわからなかったピペットやチップもだんだん使いこなせるようになり、最終日にはプレートの上に光る大腸菌のコロニーが出来ていました。パソコンの画面に現れた数百や数千のA、C、G、T、羅列を見て目が点になり、メタボロームの実習の結果をもとにE-Cellというシミュレーションソフトウェアでのシミュレーションでは何が起きているのかわからず悩み、周りの参加者がスラスラ解いている計算が出来ず焦り、3μmという微量をピペットで吸うことに凝っていると、あっという間に時間が過ぎていました。研究所のスタッフの方々がパワーポイントを用いて分りやすく講義をしてくれ、実習中

は手際よく助けてくれました。また、難しい話は簡単に説明してもらえて、わからなくて質問し続けても納得いくまでとことん付き合ってくれました。このような恵まれた環境の中にいたものの、正直未だに理解できてない事がたくさんあります。しかし、分らなかったからこそ、もっと理解したいと、この分野に以前よりも興味を持つようになりました。

今回のキャンプで学んだものは、遺伝子工学やシステム生物学の内容だけではありません。研究職には、一般的に「暗い」「地味」「マニアック」というイメージが良くあると思います。自分の好きな分野であるにもかかわらず、私もそうだと疑いもせず信じていた一人です。しかし実際行ってみると、とても近代的な建物で、外見だけではなく中も大きな窓から日光がさんさんと射し込む、学校以上に明るい研究室でした。予想外の場所で過ごした2泊3日は日常とは完璧に異なる雰囲気でも溢れていました。全国から集まった初めて会う人々との共同作業や、カードキーで解除するドア、白衣で歩き回る廊下、見た事もない機械など、戸惑う事が多くあり、新しく出来た友達との新しい発見の一つ一つが楽しみでした。キャンプでの私の最大の発見は、研究者の皆さんが驚くほど個性的で面白かったことです。ここでは「先生」という言葉を

使わず誰にでも「さん」をつけて呼びあうことになっていました。このシステムのお陰でスタッフの人々との距離も近くなり、話しかけやすく、科学とは関係の無い話でも常に笑顔で接してもらえたことがとても心地よかったです。この冗談なども飛び交う明るい空間のどこを見渡しても、「暗い」や「地味」というイメージは全く見当りませんでした。

今年の春休み、私は実験の難しさ、複雑さ、時間のかかることや楽しさを今まで以上に体験することができました。貴重な機会を与えてくれた研究者、スタッフの方々へ心から感謝の気持ちでいっぱいです。

<サイエンスキャンプとは>

先進的な研究テーマに取り組んでいる大学、公的研究機関、民間企業の研究所などを会場として、なかなか出会うことのない、実際の研究現場などの第一線で活躍する研究者や技術者から3日間直接指導を受けることができる、実験・実習を主体とした科学技術体験合宿プログラムです。主催は独立行政法人科学技術振興機構(JST)。運営は財団法人日本科学技術振興財団。詳細は<http://ppd.jsf.or.jp/camp/>

(★前ページの続き)

ら考えて、4ヶ月間で計画してきた授業でした。

この計画が本格的に始まったのは去年の11月でした。高校生の頃から「彩都プロジェクト」に関わっていたメンバーが、もう一度あの山で、このメンバーで何かやろうと言い出したのがきっかけです。それからたくさんの人にお世話になりました。大迫校長先生をはじめとして、広報にご協力頂いた八田さんとSIS保護者会の皆さん、応援のお言葉やクラスでの宣伝というご協力まで頂いた先生方、そんな心強いご支援を背に、道草学園最初の生徒として集まってくれた約30名の

SIS在校生と一緒にこの計画を実現することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今回の道草学園はこうして無事大成功を収めることができました。そして何人もこの道草学園に拍手を送って下さり、生徒の皆さんからは、また次回もやってほしいという声やスタッフをやってみたい、授業をやってみたいといった声がたくさん届いています。メンバー一同、本当に嬉しく思っています。先日ミーティングを行い、今後の方針についても話し合いました。そして、この道草学園をもう一

度開催することを決めました。まだ日程がいつになるのか、誰が授業をするのかといったことは決まっていますが、今回より更にパワーアップした道草学園を開催しようと考えています。今回参加して頂いた方もそうでない方も、ぜひ楽しみにしておいて下さい。応援よろしくお願ひします!

道草学園への質問や意見がありましたら、ぜひお気軽にご連絡下さい。
E-mail: eagletail_12@nifty.com (鷲尾崇)
Website: <http://michikusagakuen.web.fc2.com/>

バイリンガリズム通信

鏡のイメージの CS パターン

難波和彦
英語科

今回は、久しぶりにコードスイッチング (CS) の話です。CS の文法的なパターンが研究され始めたのは、1980 年あたりからで、まだまだ新しい研究分野です。いろいろな人が、こんな場合には CS は起こらない、というルールを提唱したのですが、いろいろと新しいパターンが発見され、これぞという定説はまだありません。日本語と英語のように、発音・文字・そして文を作るときに語の並べ方が、かなりちがった言語間でも、CS は行われます。そして、双方の言語が文法的におかしくないような形では行われるようです。日英の CS を研究している人たちの間で、よく見られるパターンが、次のようなものです。

(1) We bought about two pounds ぐらい 買って来たよ。

↑ ↑ ↑ ↑ (Nishimura, 1997:103)

(2) But he ate a だんご を食べたからね。 (Takagi, 2006:25)

↑ ↑

それぞれある語を対称軸として、日本語と英語が鏡のように並んでいます。(1)であれば、“two pounds” という言葉を対称軸として、「about ↔ ぐらい」「bought ↔ 買って来た」が対称的にならなくて、(2)であれば、「だんご」という言葉を対称軸として、「ate ↔ 食べた」が対称になっています。この鏡のようなパターンを Portmanteau (両開きのかばん)とも呼びます。英語と日本語を比較するときによく言われるのが、英語は SVO(主語+動詞+目的語)言語、日本語は SOV(主語+目的語+動詞)言語というものです。この鏡のパターンは、SVOV(主語+動詞+目的語+動詞)という順番になっていて、英語の SVO という順番と、日本語の SOV という順番の両方を実現するものとなっています。日本語では S=主語は、必須ではないので、省略されていると考えられます。CS では片方の言語が母体言語 (Matrix Language) で、そこにもう一方の言語が挿入されるだけ (Embedded Language) という挿入パターン (insertion) もありますが、この鏡のパターンについては、どちらが母体言語ということを決めるのは難しいので、ある言語が他の言語に切り替わる交替パターン (alternation) が起こっているといえます。例えば (2) については、このような説明ができます。この文を言った人 (イギリスに移り住んだ日本人の小学生) は、英語の文を言っていたが、「だんご」にあたる英語がなかったもので、日本語の「だんご」を英語に挿入した (insertion) そこで、この「だんご」が引き金 (triggering) となって、言語が切り替わり日本語に交替 (alternation) した。この triggering というのは (インタカルチャ 2006 年 10 月号参照)、オーストラリアで移民の CS のパターンを何十年も研究してきた Clyne という研究者によって、提唱されてきた概念で、ある単語などがひきかねとなって他の言語が活性化して CS が起こるというもので、引き金となる語 trigger word は、固有名詞、外来語といった両方の言語の中間に位置するようなものが多いということです。

さて今回は、この鏡のパターンが実際に SIS の生徒の CS の中で、起こっているのか、そこに triggering は見られるのか、

ということについて、探ってみたいと思います。次の (3) (4) は、5 歳と 7 歳の日英バイリンガルの子供が日本語話者の父親に言った文です。英語で話し始めて、途中で言葉の選択を間違えたことに気づいて、日本語に CS したともいえます。(3) では外来語の「ゴールキーパー」が trigger word の役割をしてそうです。どちらも鏡のパターンになっています。

(3) I want to be ゴールキーパー になりたい (5 歳)

↑ ↑ ↑ ↑

(4) I lost my 圈 が抜けた (7 歳)

↑ ↑

(5) は以前にもインタカルチャに書いたことのある例文ですが、「大迫」という固有名詞が trigger word になっていて、「Mrs. 大迫先生」という部分にも鏡のパターンが見えます。

(5) This was possible because Mrs. 大迫 先生がいたからこそ (SIS Grade 9)

↑ ↑ ↑ ↑

(6) は、「ER」という番組のタイトル、つまり固有名詞が、trigger word になっていそうです。「know ↔ 知ってる」が同じ言葉ですが、「Did you know ↔ 何のことか知ってる」が対応しているとみるほうが、いいのかもしれませんが。

(6) Did you know ER 何のことか知ってる? (SIS Grade 10)

↑ ↑

次の (7) の「ばかみたい」という表現は、それ自身が formulaic language つまりよく使われる決まり文句となっているので、「みたい」が「ばか」についてきたといえます。一度 like といっているから、繰り返しを避けるということには、なっていません。

(7) It sounds like so ばか みたい (SIS Grade 10)

↑ ↑

次の二つは、井藤先生の bilingualism のクラスからの新しいデータです。(8) は、「千文字」を対称軸として、「like ↔ くらい」「talked ↔ しゃべってる」が対称になっています。

(8) we talked like 千文字 くらい しゃべってるんじゃない

↑ ↑ ↑ ↑ (SIS Grade 11)

また次の (9) は、「万博公園」が固有名詞なので、trigger word として、機能しているといえます。

(9) I was out in 万博公園 の外に (SIS Grade 11)

↑ ↑

ここでは 9 例だけを見ましたが、この鏡のパターンについて次のようなことが言えます。1) 英語で始まり日本語で終わるこれは文の中心である「動詞」が英語では初めのほう、日本語では後のほうに来るという構造からきているのでしょうか。2) CS が起こる対称軸になる語は、固有名詞や外来語などが trigger word としての役割をいっていることが多いようです。3) CS の仕組みとしては、英語の文に日本語が挿入され (insertion) その語が trigger word となり、たんなる insertion では終わらずに、文が日本語に切り替わってしまう (alternation) ということが多いようです。4) つながって使われる決まり文句 formulaic language

(次ページ★に続く)

新入生とその家族のみなさんへ学園ミニ紹介

千里国際学園の一年

- 4月 入学式 春学期開始
- 5月 学園祭
- 6月 高等部スポーツ表彰式 高等部春季コンサート
- 7月 夏休み 夏のキャンプ 9年生豪州ホームステイ
- 8月 ジャスト・フォ・キッズ
- 9月 秋学期開始
- 10月 運動会
- 11月 インターナショナル・フェア 冬学期開始
- 12月 高等部ホリデイコンサート 冬休み
- 1月 中等部入学選考
- 2月 高等部入学選考 オールスクールプロダクション
- 3月 高等部卒業式 中等部卒業式 11年生学年旅行

併設の大阪インターナショナルスクール

主として英語によって行われる授業を幼稚園から12年生まで、そしてポストグラデュエート（12年生修了後）に対して提供し、関西地区の外国人生徒への教育を提供している International Baccalaureate 認定校。一部の授業・行事・クラブ活動・生徒会活動などを共にを行い、ひとつの学校として活動を行っています。

クラブ活動

運動系クラブ

- 春1 MS 女子バスケットボール、MS 男子サッカー、HS 男女サッカー（2月～4月上旬）
- 春2 MS 女子ソフトボール、HS 女子ソフトボール、MS 男女バドミントン、HS 男女バドミントン、MS 男女卓球、HS 男女卓球、MS 男子バレーボール、HS 男子野球（4月中旬～5月）
- 秋 MS 男女テニス、HS 男女テニス、MS 男子野球、HS 男子野球、HS 男女バレーボール
- 冬 MS 女子サッカー、MS 男子バスケットボール、HS 男女バスケットボール
- 通年 ランニング、トライアスロン、水泳

文科系クラブ（学園 Web サイト掲載クラブ）

点字部、写真部、English Drama Club、演劇部、千国プロ、囲碁部、茶道部、軽音部、理科部、イラストレーション部

英語を学ぶ

英語は4段階にレベル分けされた約45種類の授業の中から選べます、4人の日本人教員と7人の外国人教員が担当し、上級クラスの生徒は大阪インターナショナルスクールの English の授業を受講することができます。

自分だけの時間割

必要な科目を組み合わせ、学期ごとに自分だけの時間割を作ります。約250科目もの幅広い選択肢を活かし、学びたい授業を学びたい時に選択することができます。いつ入学しても自分に最適なコースで学べます。

自分で学ぶ 体験して学ぶ

レポート作成・実験・プレゼンテーションを重視し、考える力・表現する力を徹底して養います。大阪外国語大学の講義受講（単位認定）、大阪大学理学部や立命館大学工学部等との高大連携プログラムにも取り組んでいます。

多様な進路・幅広い選択

特定の大学に偏らず、ひとりひとりが自分にあった進路に進んでいきます。海外への進学も併設の大阪インターナショナルスクールが完全サポート。入れる大学を見つけることより、行きたい道を選び取る力を育てます。

生徒数

	男子	女子	計
SIS 中等部	73	120	193
SIS 高等部	88	159	247
SIS 合計	161	279	440
OIS	121	114	235

(2007年4月現在)

(★前ページの続き)

が挿入された場合もあります。この場合は、挿入 (insertion) パターンなのか、交替 (alternation) パターンなのか判断するのが難しい場合があります。5) 一度英語で言ったことを日本語で繰り返している、これはある意味効率の悪いことになってしまいが、西村 (1997:141) によると、その会話に参加している英語話者・日本語話者の両方を意識しているという機能がある、と説明されています。このようにある二つの言語間には、特有の CS パターンが見られるのかもしれませんが。他の言語間で、どのようなパターンがあるのかを調べてみると興味深いでしょう。

参考文献

- Nishimura, M. (1997) Japanese/English Code-switching: Syntax and Pragmatics NY: Peter Lang
- Takagi, M. (2006) Code-switching and language dominance in Japanese-English bilingual children 関西外国語大学研究論集 第83号

学年だより

● 中部部1年生 (7年生)

7年生チーム出航

井藤眞由美

1組担任、英語科

入学式からちょうど一週間がたった日にこの文を書いています。不安定な天候だった入学式から一週間ですっかり安定した「春」の気候になり、早くも桜も散り始めている今日この頃。63名の7年生たち(4月23日には64名になっています)も、ドキドキ気分でスタートしたSISの生活、新しいことづくめの一週間でしたが、一通りの授業の仕組みもわかり、少しずつ落ち着き始めているところです。毎朝と放課後のSHRやクラスノートを通じて見える入学から一週間の7年生の様子をお知らせします。(7年生生徒のみんなへはミニアドバイスのつもりです)

はやくも初日から「自分らしくいられる場所に来てほっとした」という感想を伝えてくれる人がたくさんいます。これまでのいろんな経験をこれからもSISでもっともっと伸ばしていけるよう、いろんなチャレンジを探しはじめてください。クラブや授業を通じて、OISや他の学年の人との交流もどんどん広げることができます。

最初の日々が驚きの連続で、ちょっとパニックになってしまった、という人がいました。時間割が一人ずつに渡されること、いきなりの英語だけの授業、毎時間の教室移動、常に英語と日本語でされるアナウンスメント、運動系クラブでのコーチの英語、、、etc.今のその驚きの気持ちは、あとになってわかる「とても貴重な体験」ですよ。パニックにはならず、驚いている自分を楽しんでほしいな、と思います。担任との交換ノートに何人もの人が「Artの時間の英語の説明がわからなかったのは私一人だったようだ」と書いてくれました。そう、あなただけではないんですよ。それから、「みんな違っていいんだ」という言葉も思い出してくださいね。自分のペースで進んでいきましょう。と同時に、わからないことや知らないことがあるのはちっとも恥ずかしいことではないので、勇気を出して「人に尋ねる」を実行してください。

海外から帰ったばかりの人は、日々の大半を日本語で過ごす生活にカルチャー

ショックを感じているかもしれませんね。その上、日本という新しい環境での生活も始まったばかりで、家でも学校でも新しいことばかりなのだから自分で感じる以上に体も疲れていると思います。まずはゆっくり体をなじませてください。SISでは日本語と英語はどこでも使えるし、そのほかの言語も使える場がたくさんありますよ。

一週間目の今日は初めてのロングホームルームの時間もあり、そこではクラスのいろんな役員を決めたり、5月にある学園祭についての話を始めました。クラスの役員も進んで立候補してくれる人たちですぐに決まり、学園祭についても活発にいろんなアイデアが交わされました。お互いの発言をリスペクトしあえる良い雰囲気です。7年生の活動が始まっています。この様子を見てみると、この文が印刷されるまでには7年生たちはもうすっかりSISの生活リズムに慣れていてのではないかと思います。でもこの機会にもう一度、入学の日から今までを振り返ってみてください。そして春学期の間は上に書いたことを気に留めていてください。

入学式あとのシアターでの集まり、またペアレンツイブニングにご参加くださった保護者の皆様ありがとうございました。7年生担任団、真砂和典(理科)、岡本茉莉(国語)、井藤眞由美(英語科)、力を合わせて3人で64人の生徒たちをサポートしていきます。どうぞ今後ともよろしくお願いします。

● 中部部2年生 (8年生)

5 Respects 活動

難波和彦

1組担任、英語科

2007年度の8年生には、2名の新しい仲間が加わりました。一人は、学年としては初めての転入生ということになります。パナマから帰国してきた山下愛(まな)さんです。もう一人は齊藤先生に替わって、新しく担任団に入ってくれた社会科の中村亮介(りょうすけ)先生です。(齊藤先生は、寮のお仕事が多忙なため今年は担任ができません、齊藤先生1年間ありがとうございました。)フレッシュな二人を迎えて、学年として新しいスタートを切りました。7年生のときのLHRやSHRでは、Respect for selfやRespect for othersなどにポイントをとり、自分をしっかりと見つめる機会、例えばジャー

ナルや学期末の振り返りシートをしたり、(Respect for Self)、学校の中のいろんな人としりあうということで、OISと一緒にアクティビティをすること、学校の職員の方々にインタビューをすることまた、ミルク募金(Respect for Others)などに取り組んできました。昨年の冬学期には1年間のLHRの総仕上げとして、Diversity(多様性)Prejudice(偏見)Respectについて学ぶProjectをしました。(Respect for Learning)ぞうのエルマーの絵本や100人村の活動などを通して、Diversityに目をむけ、偏見にはどんなものがあるのか、なぜ起こるのか、ということについて、Harry Potterの映画の1シーンを使って、学んだりして、最後にはグループに分かれて5Respectsのポスターをつくり、それを劇などを交えてプレゼンをしました。ここに載せた写真は、そのときのものです。左の生徒は悪いことをした生徒の役、真ん中の生徒は担任の役、右端の生徒は校長先生の役をしています。



8年生になってから最初の取り組みは、Respect for Leadershipです。7年生の間は、SIS初心者として、いろんな人にお世話になったわけですが、8年生になると今度は、新7年生という後輩ができます。先輩・後輩というのは、年上だから偉そうにする、というのではなく、経験者として、いいrole model(見本)になって、教えてあげる、ということです。これが新8年の最初の目標です。4月3日の入学式前日には学校の中の案内を担当し3-4人のグループで、新入生に迷路のようなこの学校のなかのいろいろな場所の案内をし、同時に学校のいろんなことを紹介するという機会をもちました。4月4日の入学式後には、歓迎会ということで、自己紹介・ゲーム・SISに関するクイズ、そして5 respectsを紹介するプレゼン(冬学期末に選ばれたグループ)を行いました。

この後は学園祭に向けて各クラス・各学年で取り組みが進められていきます。昨

年は、お金儲けを目的としないようにしよう、ということで、入場料をとらない取り組みをしました。今年は学校全体の取り組みでもある、チャリティに寄付をする、ということも学年でも主眼におき、Respect for the Environment という趣旨にあった Charity に寄付をするということを考えています。そして各クラスの取り組みもそれをもとに考えていくということで、今 HR でディスカッションをしています。学園祭の店のデザインに関するテーマも、Oceans (海) ということに決まったので、目的・テーマをしっかりと見据えて、クラスの友達と協力をし、それぞれの役割をしっかりと果たして、楽しんでほしいと思っています。

最後に、昨年1年間生徒たちは本当に、5 respects のことをよく考えて行動をし、しかもプレゼンでがんばる、豊かな創造性を発揮する、というこの学校の生徒としての、すばらしい部分も開花させていたと思います。これからは後に続く学年の role model となれるように、このまままっすぐ、伸びていってほしいと、願っています。

● 中等部3年生 (9年生)

9年の新年度スタート

高橋寿弥

1組担任、数学科

いよいよ中学最高学年の9年生としてのスタートをきりました。大部分のみなさんは、本校において3年目の春を迎えることになりました。決意新たに、4月から学校生活に入っている子も多いのではないのでしょうか？

学年としての団結力・協力は年々強くなってきているのは、本当にみなさんの成長の証(あかし)だと思います。決して自分のことだけを考えるのではなく、他の生徒に対する細やかな配慮も、みなさんの学校生活の様子を見ていると、よく伝わってきます。この調子で、非常に良い雰囲気のある学年の状態、これから更に、確実に成長していくみなさんの姿を見守っていききたいと思います。

勿論学年には、「これから解決しなければならない課題」もたくさんあるのは事実です。朝遅刻する生徒がまだ多いことや、4時半下校が(だいぶ良くなったものの)まだ徹底されていないことや・・・でもいきなり全てのことを同時に解決することは難しいと思いますので、1つずつ確実に解決できるように、9年生全員が各自強

く意識していってくださいね。これもしっかりと見ていきたいと思います。

4月から4人の仲間が増え、全体で74人になり、4クラスになりました。4人の編入生のみならず早く学校生活に慣れて、楽しい学園生活を送り、またしっかりと勉強していってほしいと思います。

まずは、5月26日(土)の学園祭。本校の非常に大きな学校行事です。昨年度までより更に知恵を振り絞り、みんな一致団結して是非成功させましょうね！楽しみにしています！！

● 高等部1年生 (10年生)

SIS 高等部入学おめでとう

合志智子

1組担任、情報科

10年生は内部進学生70名に新しい仲間13名を加え、83名で入学式を迎えました。担任は1組合志(情報科、総合科)、2組新見(理科)、3組木村(国語科)、4組松島(国語科)の4名です。クラスの枠を超えた協力体制で、学年の皆さんをサポートしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

10年生は、入学式の1日前から学年全体の活動がスタートしました。まず、入学式前日に行なわれた新入生オリエンテーションでは、ボランティアを申し出てくれた生徒が、新入生と行動を共にし、案内や手助けをしてくれました。またそれ以外の生徒は、入学式のための会場設営で、すばらしい働きぶりを見せてくれました。また入学式当日の午後には、新しい仲間が少しでも早く学校になじめるように、歓迎パーティーを生徒主導で開催しました。春休み中に企画と準備をしっかりとっておくれた生徒、当日、司会進行で活躍してくれた生徒、パーティーで盛り上げ

役を務めてくれた生徒など、それぞれが自分の持ち場でがんばってくれて、生徒、教員ともに楽しい時間を過ごしました。とても気持ちよく、さわやかなスタートになりました。

この10年生の皆さんが7年生の時は全学期、8年生の時は2学期間、私はすべてのクラスの生徒と授業で接してきましたが、久々にいっしょに時間を過ごしてみても、とても穏やかで和やかな雰囲気を感じています。新学期早々は、連絡事項や書類提出、決めないといけないことなど、やる事がいっぱいであわただしいSHRの時間を過ごしていますが、朝からみんないい笑顔を見せてくれています。何かボランティアのお願いをすると、誰かが手を挙げてくれます。

今年の10年生のLHRの時間は、生徒たちの手で企画、運営してもらおうと、各クラスからLHR委員を選出しました。また早速、5月の学園祭に向けての活動が始まりました。クラスの企画も話し合っています。パフォーマンスに出ようと計画している生徒もいます。ますます忙しく、また生徒の活躍が期待される時期になります。中等部のころは、学園祭では担任とともに企画や準備をする場面も多くありましたが、高等部の最初の学園祭を、どのように自分たちの力で作り上げていってくれるのかを楽しみにしています。それぞれが個性を出し、自分の得意な分野でリーダーシップを発揮して欲しいと思います。

10年生の皆さん、また大きく環境が変わる3年後を見据えながら、日々の学習や課外活動にしっかりと取り組み、新しいことへもチャレンジし、充実した1年を送ってください。もちろん、自分を、他の人を、環境を、学習を、リーダーシップを大切に



高等部1年生歓迎パーティー

●高等部2年生 (11年生)

長期・中期・短期の目標

福島浩介

1組担任、国語科

新学年が始まり、担任団に異動がありました。私が学年主任を仰せつかり、二組にレイ先生、三組水口先生、四組は相良先生という構成です。よろしくお願ひします。

昨年一年間は、いろいろ試して、いろいろ首を突っ込み、自分が何をしたいのか・何に向いているのかなど「自分探しの旅」を奨励してきたわけでありました。これは今までより間口を広げて可能性を模索するということでありました。今年の前半はその継続であります。後半からはいよいよ、そうして見つけた可能性を絞り込み、より具体的にしていける方向へ向かって頂きたいと思っています。これは、ある程度長いスパンにかかわることですね。

では、どうするのか？ いろいろな方法がありますが、一つ提案しておきます。この春学期の間に見当をつけておいて、夏休みを利用して実際にやってみる、その場所に行ってみるなど具体的に形に残す、実際の行動に移すというのはどうでしょうか？ そうすれば、自分の想像していたことが確信に変わるかもしれないし、そこへ到達するためには何をしなければならぬかということが具体的に見えてくるかもしれない。もしかしたら、思っていたのと違うと気づき方向転換することも可能ですねえ。一粒で二度おいしいかもしれない。

次に、この一年間というスパンでは、高等部二年生の大きなイベントとして学年旅行があります。伝統的に生徒が行き先を決め、生徒中心の旅行委員会が計画・交渉の大きな部分を担い、「全員で作上げる」のが、学年旅行であります。学校のお仕着せの修学旅行ではありません。大変な労力を伴いますが、成し遂げた後には大きな成長が出来るし、達成感もあります。そしてその終了後は… っと、これはまたのちの機会に。

三つ目になりますが、上に述べた「自分の将来のこと」「大きなイベント」のみが高等部二年で成し遂げるべきことではありません。春学期の初日に生徒諸君にお話ししましたが、毎日のこと、そして毎時間のことをきっちりと出来るように

なってください。時間を守る、整理整頓をする、そのときそのときやるべきことを見極め実行する、してはならないことはしない… etc

さて、長期・中期・短期の目標という風にマクロなものからミクロなものまで取りそろえてみました。いかがでしょうか？ ともかくね、頭も体も心もしっかり使ってこれから何十年も使っていくに十分な自分を作り上げてください。

って、感じてどうでしょうかね、年度の初めにあたっては。よろしくお願ひしますね、ほんと。

●高等部3年生 (12年生)

志望理由書 (含“自己PR”)

池田大介 (愚童禪師と…)

3組担任、社会科

『しぼ〜りゆ〜しょ』の憂鬱的「展」開、否、憂鬱を「転？」開、あるいは… (←意味不明…) …!』

“志望理由 (含“自己PR”)” …

この言葉を、この4月より新しく SIS 高等部 12 年生となった諸君は、そろそろこの言葉が気になり始めてきた頃でしょうか…

よく考えると、諸君は、ついこの間まで 11 年生。ついこの間先輩たちを卒業式で見送ったばかり。その、たった 1 年学年が違うだけの、きっと諸々の授業で、机を並べたであろうところの、先の 3 月卒業生たちと、SIS 特有 (?) の先輩・後輩の上下関係ない中で、まさしく“仲間”として、“同士”として、何年もつきあってきたのでせうが…彼らが、急によそよそしく感じ、遠くに行ってしまったような感覚におそわれるのが、一方が“志望理由”を考え始めて頃から、ではなかったでしょうか…

この“志望理由”。すぐ頭に浮かぶのが、大学入試における「AO 入試」や「自己推薦入試」の、大学側から受験の際に求められる出願書類の一つ、と。しかし、もちろん「一般入試」を受ける場合にも、受験する大学・短大等を決定するためには、この“(志望理由、的なる)過程”を必ず踏むはず。つまり、新たに事を起こそうとした際には、ゼッタイに通らなければならない、精神的ある種の通過儀礼、と。

偲。

ふたたび、“志望理由 (含“自己

PR”)” …

この言葉を、12 年生たちは、何度も頭に浮かべては消し、浮かべては消し、浮かべては修正、意味を咀嚼しようと試み、自問自答し、親にその疑問をぶつけ、教師に尋ねてもみることになるでしょう / なっていることでしょうか…

しかし、答は見つからない。

大学か専門学校か就職か…はたまた、どの分野か…

大人たちは、明確な“それ”を求める…現在は、“知らないことがユルサれない”時代。その直中において、その洗礼をまさに受けているのが今の若者たちとその世代…

…でも、待てよ…

果たしてその大人たちは、諸々の“選択”の折点で、第三者に、対外的に、“それ”を明示できたであろうか？

きっと、「先生はね…」、「お父さんはね…」…と弁舌爽やかに、人生の後輩たちに、多少の脚色も添えて (!)、朗々と相手を頷かせるだけの論旨を吐露するであろう (きっとそうなんだな←東海林くん風! ?)。

だが、それは、あくまでも、現在の自分を無条件に肯定しようとする意識が作用しているのではないか？ 極めて予定調和的で自慰的な昔語りには陥っていないか？

甚だ疑問である (う〜ん…) …

今回、かつての SIS 卒業生 2 名の協力を得、「(AO 入試・自己推薦入試の出願書類としての) 志望理由書 (含“自己PR書”)」を公開。

「では、どうぞ (その上で、昨年度「インターカルチャー -11 年学年だより」に掲載した、池田による“(大学の) 志望理由”を再度ご覧いただき、読者の相対的な [心の中の] 評価をいただきたい…! ?)。」



なお、ぶらばいほゴの為(?)、作成学生名・受験校名・合否・男女の別等は伏せ(含伏字)させていただきます。

※Aさん/君の場合…;

今夏、私はワールドリーダーズサミットというアメリカ合衆国で開催された、参加地域・国数33、全参加者約400人(日本からは11人が選抜・参加)の学生たちが一週間共に過ごすというプログラムに参加した。これは一種の模擬国連の様相を呈し、世界が直面する(一種お約束の)テーマ群を各グループ毎に話し合い、解決策を導きだすものだ。帰国当初は、バラバラで協調性の欠片もなかった私たちのグループが、一つの解決策を導き出したことに唯ひたすら感動していた。しかし、冷静になってみると、果たして私たちは本当の意味の「国際社会」を体験できたか、という疑問が浮かんできた。私のこの帰国後の「もやもや感」は、今に始まったことではない。私が4年間過ごした本校(インターナショナル・スクールと称しつつも内実はアメリカン・スクールを併設、計約45ヶ国籍の生徒が在籍)が掲げる「国際」という言葉を聞いた時に感じる「うさんくささ」と共通するものがあつた。それは、いわば「違う」者同士が集まった時に生じる摩擦を、表面上だけの「話し合い」を経た上で、大多数に寄りかかることによって解決しようという「勇気ある妥協」に起因するのではないか。そこから私はこの問題について、まず「自分探し」を含め考えてみたいと思う。

今の日本における「国際化」は、戦

争という非常事態に通じるモノがあり、戦闘中に敵と味方に分かれなければならない「作られた」切迫感に基づく「絶対二分の法則」とも呼ぶべき関係が、1対1の異文化間コミュニケーションにも見受けられると思う。つまり、相手を理解せねばならぬ、というその場限りの使命感に支配されているのだ。果たしてこれで国際化といえるのか。

さて、自分を他人と対比し、自己を相対化させることによって、自分に気づき進歩することがある。しかし、これが単なる手法論となり、あまりにも単純に自分と他人を比較し、自己を相対化させるどころか、過度の危機意識に対する無難な道としての他人との同一化は、極めて予定調和的で多分に「お気楽」な国際性と成り果てる。私自身は、国際化とは人に「出会い続けること」だと思う。どんなに个性的で立場の全く異なる人々と自分を対比しても、その環境に「慣れ」てしまえば、国際化は終わる。つまり、それはただのお気楽国際化だったのである。「慣れ」ることは同化につながり、同化は他者を排除しがちな単一へと向かう。だからこそ、常に「国際化」、人に出会い続けることによって、「個」を確立すべきだ。「孤」としての「個(人)」と「個性」を全くの同義として混同してきた上で、国家の一構成員として、国家に対して個人のアイデンティティを求めてきた時代、言い換えれば「他」にそれを求めてきた時代に終止符を打ち、今後は正に「個(人)」の「中」にアイデンティティを求めべき、あるいは、それを求めるという行為自体を止めるべきであると考え

る。さらに、私は「帰国生(在エクアドル・インドネシア計7年)」であることを理由に、本来自分が属しているはずの日本で疎外感を覚えることがある。そして、その裏にあるのは、日本では自分以外のモノに対し無関心、また「無防備」でいられる、ということではないか。それはすなわち、緊張感がないということだ。それが故に人々は国家に対し自分の声を反映させることができない。日本においては、個人に自分の国家という意識が薄いがために、「国民」という「塊」の抽象的な観念を唱えるだけで、個々人の声には答えてくれない傾向があるように思う。この現状を変えられる一つの転

機として、「自分の意見(好み?)を持つこと」が挙げられる。つまり、国民を一つの「塊」とする発想ではなく、全体を構成する「部分」を主役にする、という意識改革が肝要なのではないか。

ところで、「AO入試」に出願し、合格する人は全て自分なりの意見を、哲学や思想として「確立」できているのだろうか。「志望理由書」とは自分がその大学を希望する理由の中に、「なぜ」その大学で「なければならない」のか、ということも書かなければならないが、私はその理由が明確ではない。私は、「○○○*注:大学名」の学習内容の幅広さ(総合性)とオープンキャンパスの際に感じた大学の雰囲気が入ったわけだが、それだけでは合格しない。そこで、あれこれと志望理由になりそうなものを探してみるのだが、考えれば考える程、それが「嘘」に思えてくる。AO入試に出願する全ての人は、最終目標である「合格」を勝ち取るために、「とってつけた」ような思想性を大人たちに対して「体裁」だけ整えるのである。しかし、私は、考えれば考える程、「嘘」になり独り歩きを始める「理由」を体裁だけ整え、尤もらしく語るよりも、正直に理由は分からないが大学に「惹かれる」という方が良いと思う。

AO入試受験は「賭け」であり、「妥協」である。ここでいう「妥協」とは、「直感」と志望理由を明示しなければならないという相反する感情を自分の気持ちの中に共存させ、折り合いをつけるということだ。よって、現時点においては、前述の通り、私という利己的な「個」を根底とした「直感」に基づく部分を以って「志望理由」とする。

(池田のコメント:①池田の自宅のFAX用紙が「1本」終了するまでFAXを送り続けた君…それはそれはスママセンでした、と恐縮の君…FAX用紙「(1本ではなく)2本!」買ってきますっ、と言った君…そう言いながら、FAX用紙を持って来ず、とうとう卒業してしまった君…「いつ持って来るんだ!? (怒!←うそ[笑])」②志望理由書とともに提出する別の書類で; <<あなたがふれてきたメディアには本だけでなくテレビ、マンガ、CD、ビデオなどさまざまなものがあると思います。今のあなたに影響を与えたメディアとその具体的な内容を5つ列

千里国際学園基本方針

千里国際学園では、自分の行動に責任を持ち、よい人間関係を維持していく能力が、生徒各自に備わっていると信じます。この考えにもとづいて、次のような行動の目安がつけられています。

<5つのリスペクト>

- 自分を大切にす
- 他の人を大切にす
- 学習を大切にす
- 環境を大切にす
- リーダーシップを大切にす

挙し、簡単にコメントしてください。※原文ママ」の大学からの問いに、何と貴女は「先生」を挙げ（「先生」が「メディア」！？）、貴女は、こう書きましたね…；『授業を離れると、見事なまでに紋切り口上としての美辞麗句を連呼し、それを宗教と見紛うばかりに昇華させ、生徒に盲信させていると悦に入っているカワイイ九官鳥！？（ごめんなさい！）と思うことがなきにしもあらず※原文ママ』…この「先生」とは、「池田」のことでしょ？私は知っています！（？）

※B君/さんの場合…；

①私にとって心理学を学ぶことの意味；思い起こせば私には幼少時から、周りにとって自分は、逆に自分にとって周りは、どうい存在なのか、との問いを自分に投げかけ、現状の把握を試みるという分析癖があった。それ故、私は本音を確認しながら、常に無理のない程度に周りから期待されている自分を演じてきた。ある時私は自分の無意識の計らいを自覚し、それが8年間の日本人学校での生活に起因していると思いがたった。同じ日本人であっても各々異質な文化を持ち、様々な個性がひしめき合う中で私の妙な癖は潤滑油として作用することが求められたのだ。つまり人間の行動や思考形式には、その人の生まれ育った環境が大きく影響することを実感したのである。ところで社会は絶えず流動しているが、異文化間のボーダーレス化やITの発達に伴い、人間の生活様式も一刻ごとにその姿を変えていく必要がある。変動の中で、自分の行動や他者との関わり合い方に疑問や不安を抱く人が増えていくことは容易に想像出来る。そして社会的環境の中で個人や集団がどのような行動を示すかを研究する学問である社会心理学への追究が求められる。つまり社会は生きており、その中で人は生きている。この様な二者の相互関係について考える「生きた学問」である社会心理学に、私は大変魅力を感じるのである。将来的には、社会心理学で得た知識や能力を生かして、企業の中で、人材の能力開発等人事コンサルタント的な仕事に従事出来ればと考えている。私にとって心理学を学ぶということは、自分の対人関係のパターンの解明が発端であったが、それにとどまらず人間全般への理解と共感能力を高め、自己の安定を得、

人生をより充実したものへと発展させていくという理想的な意味を持つ。それは同時に、個人としての私や社会の一員としての私の生き方を方向付けるという、非常に現実的な意味をも持ち合わせている。要するに、心理学はこれからの私の人生を考えた時に無くてはならないものなのである。

②自己推薦書；私は、6歳からの約8年間という、私の人生の約半分とも言える時間を海外（スペイン・イギリス）で過ごした。海外で生活するに当たって、方針や学習内容が少しも日本の学校と変わらない日本人学校の内的環境と、家から一歩外へ出た時の日本とは全く異なった海外の外的環境とのギャップは、非常に大きかった。しかし、私自身はそれぞれの場に自分を適応させることを学んだのである。ここで言う「適応」とは私にとって第三者的な立場から、事象の本質を理解し、自分の価値観に照合の上合致したものを、自分の中で折り合いをつけ、自分の思想や行動の要素、様式として取り入れることである。私は日本人学校での様々な人間関係に自分を適応させていく過程で、自分や他者の心理を常に意識し、それらの本音と建前を推測し、出来る限り不必要な摩擦が生じることのないように心掛けてきた。この様な私の無意識の行動の自覚が、私の「心理学」への興味を駆り立てる契機となったのである。海外の日本人学校という一見中途半端な状況は、私にある特定の文化にドブプリ浸ることのない、適度なバランス感覚を身に付ける機会をくれただけでなく、まさに「心理学」への扉を開く鍵となったのである。さて貴大学は、アメリカだけでなく、ヨーロッパやアジア、中南米等幅広い地域からの交換留学生を受け入れ、複数の文化が共存した国際的な学風を確立している。また、その共存自体が一種の特定の文化、つまり「○○*注：大学名」文化”を形成していると言える。私は海外経験から、それぞれの異文化が人々の心理に与える影響等、文化と人間の相互関係や、人間というものの自体へ興味を持つようになった。一つのものの中に複数の異なった文化が存在する状態は、貴大学でありまた私自身でもあるのだが、一つの文化に固定化された状態と比べて、非常に流動性が高いものである。しかし、こ

で言う「流動性」とは常に変化して止まない現代を的確に象徴する言葉であり、これからの時代を先駆ける者として、必ず経験しなければならない試練を意味する。私は、貴大学の「流動性」の中で、心理学を学び、自分の中にある「流動性」を冷静に見つめ直すことで、心理学の幅広い知識を体系的に学び、複眼的思考能力を養い、真の意味での自己を知りたいと考えているのである。私は人が社会のまず一員であり、何らかの組織に参入する可能性が極めて高い以上、その人間関係を組織の上で有機的に連結させ、有効に物事を進行させる方法論的実学としても、心理学を選択したい。以上のことを踏まえた上で、貴大学ならではの環境の中で、真の「国際性」をも身に付けることが出来たら幸いである。

（池田のコメント：貴女の“…転じて福となす”的姿勢には感服した憶/覚えがあります…懐かしいのお…しかも貴女は、希代の“アメ好き（池田の上をいくとは…！？）”）

この一年を皆さんとともに（合掌）。



千里国際学園教育博覧会のお知らせ

SIS Education Expo

2007年6月10日(日) 13:00 ~ 17:00

テーマ 「日本の未来を創る学校」

学校説明会の一環として、今年初めてこのような日を設けました。本校入学を希望されるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、どうぞお伝えください。

大迫校長による基調講演、トーク、模擬授業、セミナー、プレゼンテーション、展示など様々な形式で本校の教育実践をご覧ください。

2007年度 Open Days (学校説明会等)のご案内

5月17日(木) 13:30-	第一回学校説明会
6月10日(日) 13:00-17:00	SIS Education Expo
9月22日(土) 13:30-	第二回学校説明会
10月13日(土) 10:00-	オープンスクール (参加型公開授業)
11月11日(日) 13:30-	第三回学校説明会

(入学センター)

英検準1級に3名合格

水口 香
英語科

2006年度第3回英語検定試験の結果

2007年4月11日時点で報告があった合格者数をお知らせいたします。

準1級	3名
2級	12名
3級	3名

合格者の中で、SIS卒業生の長谷翠さんが準1級で優良賞を、またOIS8年生の馬場健人君が2級で優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。

TOEFL 単位認定について

英検以外にもTOEFLの成績を単位として認定しています。TOEFL-iBTの場合61点以上、TOEFL-CBTの場合173点以上で3単位認定します。単位認定がまだの生徒は英語科水口まで成績書を持参の上、申請にきてください。

●学校を通して受験しなかった場合や、他の検定試験結果も掲載いたします。編集部までお知らせください。

元気な心と身体をつくろう

弥永千穂
スクールナース

春は1年に1度の健康診断の時期です。学生のみならずだけでなく、大人も1年に1回健康診断を受ける季節です。健康診断はかくれた病気を見つける大切な機会です。もし1年間に1回の健康診断がなければ、身体の不調がおこるまで病院には行かないでしょう？症状が出ているときは病気が進行している時かもしれません。だからこそ健康診断は病気の早期発見、早期治療に役立っています。もちろんすべての事が分かるわけではないので日々みなさんで自分の身体は大丈夫かな？とご家庭でもケアしてもらわなくてはなりません。学校での健康診断は健康上学校生活に影響がでるような大きな問題がないのか、もっとくわしい検査が必要なかを調べるためのものです。尿検査は腎臓の病気を見つけることができます。身体測定では身長、体重の増加、肥満の傾向をみます。この時期の肥満は大人になっても肥満傾向になり、生活

習慣病をひきおこします。視力測定はメガネやコンタクトレンズが必要か分かります。どれも学校生活、日常生活に影響を与えますよね。すこし面倒な健康診断ですがこの機会に自分は「健康かな？」と振り返ってもらえればと思います。何かくわしい検査などが必要な場合はみなさんにHRを通じてお手紙を渡しますのでご家庭でその後のケアをお願いします。そしてご家庭で健康診断結果を報告しあってくださいね。結果についての質問があれば遠慮なく保健室まで聞きにきてください。そして1年元気な心と身体をつくるために①PE以外でもできるだけ運動する機会をもつ②保護者と毎日話す時間をもつ③時間をうまく使って睡眠時間をしっかりとる。まずはこの3つを少しずつ生活に取り入れてもらえればと思います。春学期が始まりすこししんどくなるのが5月です。すこし深呼吸をしましょうね。

千里国際学園図書館によろこそ

青山比呂乃

図書館

* 図書館紹介

新入生、編入生のみなさん、千里国際学園図書館によろこそ。ここでは2名の教員以外に図書館スタッフ4名が半日づつ働いています。また、図書館2階は、語学学習センター、マルチメディアコンピュータ教室、OIS 情報科 IT 研究室がはいったマルチメディアフロアで、OISIT の先生のほかに、図書館スタッフが交替で1名常駐し、IT スタッフも2名(内1名は図書館スタッフ兼任)常駐しています。ただ、この4月に英語資料担当の司書教諭ウェルシュ先生が事情で一足先に退任されたため、現在はサブの先生になっています。9月からは、新任のカナダ人の先生が赴任の予定です。

図書館1階には118席用意していますが、授業で使われる事も多く、空き時間の生徒も含めて、いっぱいになってしまうこともあります。SISとOIS両方の学校、つまり幼稚園から高3までの700名ほどの生徒、また教員職員、保護者の方々、しかも世界各国の文化的背景を持つ人たちが皆で使う図書館です。お互いに気持ち良く使えるように、心掛けましょう。

また、学園では、通常4時半が下校時刻になっていますが、図書館は中高生の為に開館延長をされていて、サインナップシートに必要な事項を記入する事で6時まで図書館に残って勉強する事ができます。ただし、8年生までは、担任の先生のサインのある許可証も必要になります。

なお、図書館は生徒の利用の妨げにならない範囲で保護者の方も利用することができます。初めて利用する際には、スタッフに声を掛けてください。利用の規則は生徒と同じです。ただし、本を借りる場合は、貸出デスクで登録の手続きをしたうえで、ご本人の責任において借出・返却をしてください。生徒が保護者の名前で、または保護者が生徒の名前で本を借りることはできません。

家族の方が読書にいそまれる姿は、生徒達にもきっといい影響を与えていると思いますので、どうぞご利用ください。

* 新しい本棚が入りました

良く図書館に来ている人は、もう気付いていると思いますが、今まで、小学生エリアとしていた図書館の北東角に、新しい本棚が増えました。全部で64棚分です。

これに伴い、いままでOIS小学生向けのごく易しい日本語の本のみを置いていたエリアを、7/8年生くらいまでが使いやすいような日本語の本を置くエリアへと変更しました。春学期中に、今まで、中高生エリアにあった本のうち、比較的読みやすく判りやすい本はこの新しい本棚へ引越します。このエリアの本には、コンピュータで検索すると請求記号の始めにE(Easy)の記号がついています。それによって、棚がきつくて本が入りきらなかったところを無くし、より使いやすくなる予定です。

今までと同様、この易しい本のエリアは上級生が使ってはいけない、ということではありません。むしろ、難しい事柄をきちんと易しい言葉で説明してある本がたくさんあり、良いプレゼ

ンテーションやレポートの参考になると思いますので、高校生でも大いに利用してください。

また、一方で、SIS開学17年目となり、図書館にもだいぶ古く壊れかけた本が増えたため、それを廃棄して新しく買い直す作業も進めていく予定です。

* 日本語図書 歴代貸出記録

毎年恒例になった日本語図書最多貸出記録の報告です。今回は、3月に卒業した学年の6位までと、今までの歴代の記録を紹介します。

2007年3月卒業生日本語図書最多貸出記録(6年間在籍)

- 1位: 大竹香織さん 280冊
- 2位: 左海美鈴さん 244冊
- 3位: 溝口智顕くん 214冊
- 4位: 畑まりあさん 190冊
- 5位: 井上裕子さん 173冊 (5年間在籍)
- 6位: 手木マリアさん 171冊

なお、3年間で、相当数借りた人も挙げておきます。

- 9位: 野本由布貴さん 119冊 (3年間在籍)

1997～2007年歴代卒業生最多貸出記録

- 1位: 2002年 刺賀蘭里さん 1043冊
- 2位: 2006年 馬場宏高くん 979冊
- 3位: 2002年 新井隼子さん 445冊
- 4位: 1998年 沼田貴範くん 376冊
- 5位: 2003年 角田 瞳さん 346冊
- 6位: 2001年 松宮寧子さん 328冊
- 2003年 伊藤 愛さん 328冊
- 2005年 曹 千紘さん 328冊
- 7位: 2004年 有田 梓さん 305冊
- 8位: 1999年 井上愛子さん 302冊
- 9位: 1997年 廣瀬裕紀子さん 291冊
- 10位: 2007年 大竹香織さん 280冊

残念ながら、コンピュータシステム上の違いから、英語図書の記録はありません。いろんな意味で簡単には誰が一番とは言えないのですが、一つの記録としてみてください。

新入生の皆さんもぜひたくさん借りて、この記録を追い越してくださいね!

* 卒業生からのプレゼント

12年生が卒業記念品として、図書館入口のブラインドを贈ってくれました。今までドアのところにブラインドがなかったので、特に夏休みの間に家具や本がとて日焼けしてしまっていたのですが、これで少し解消できます。爽やかなミントグリーンのブラインドで、図書館が閉館している時だけ閉めています。

* 保護者ボランティア近況

この数ヶ月、SISの保護者1名の方が、継続的に図書館の仕事のお手伝いをしてくださっています。おかげで本にカバーを掛け、生徒の図書委員が忙しくて、あまり配架が進まなかった間、乱れた本棚の整理ができました。ありがとうございました。

(次ページ★に続く)

グラフ電卓アートコンテストで佳作入選

馬場博史

数学科

◆「関数グラフアート全国コンテスト」初参加で佳作入選

中等部8年山村魁士君が、グラフ電卓で絵を描く「第2回関数グラフアート全国コンテスト」(福井工専内運営委員会主催)で佳作に選ばれ、賞状と賞品(図書券と電卓)が贈られました。全国の中高大学生から91点の応募があり、26点が一時審査を通過、そのうち最優秀1点、優秀6点、その他19点が佳作でした。おめでとうございます。

コンテストは制限部門($y=f(x)$ 型の関数を10個以内用いて描いた作品)と自由部門(関数の種類や個数に制限を設けないで自由に描いた作品。)があります。第3回締切は2007年12月です。みなさんも奮って応募してください。

◆グラフ電卓プログラミングコンテスト

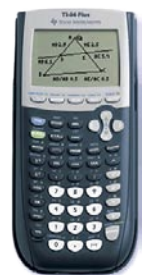
昨年度からSIS/OIS数学科主催でグラフ電卓プログラミングコンテストを秋に開催しています。グラフ電卓のプログラミング機能を使うとゲームなどもできますが、募集は数学の学習に役立つものに限ります。こちらの方も奮って応募してください。9月に募集します。

◆数学(または数学と理科) 高大連携プログラム

近年増加している大学の高校生向け公開講座や出張講義などに出席することによって、より高いレベルの教養を身につけることができます。またこれらのプログラムに参加し、新鮮な刺激を受けることで、今後の学習目標や将来の進路を考える動機づけにもなります。ほとんどのプログラムは無料で受講することができます。数学(または数学と理科)が好きな人、理数系への進学を考えている人は積極的に参加してください。最新の連絡は主にメーリングリスト登録者へのEメールとSIS数学科(W214)前の掲示で行いますので、興味のある人は登録しておいてください。申込先 hbaba@senri.ed.jp

春休み中に立命館大学の体験講座「学びのカタチ」に参加した中島徳市君(SIS12)の感想を以下に紹介します。

僕は3月29日と30日、立命館大学で3次元CAD(Computer Aided Design)の体験講座を受講しました。講座の内容はラジコンカーに搭載されているエンジンを分解し、その中のパーツの1つを分担してCADを用いて作図してみても基本的なCAD



山村魁士君の入選作品「怪獣」と数学の授業で使用しているグラフ電卓

の扱い方を学び、その後再び説明書をもとにエンジを組み直しラジコンカーに積み込み元どおりに走るかどうかを試しました。僕らは4つのグループに別れて作業をしましたが結果は全て成功でした。担当の先生の説明も分かり易く、助手の方々もわからないところを質問したらすぐに答えてくださり、とても充実した2日間をおくることができました

◆ピーター・フランクルさん箕面へ

朝日新聞夕刊に「私の教育再生」を連載している、数学者で大道芸人のピーター・フランクルさんが、6/17(日)午後2時より箕面市グリーンホールにて、同じテーマで講演されます。大人1200円(前売1000円)高校生以下600円(前売500円)。チケットはグリーンホール他箕面市内各所で購入できます。

本校は、1998年度より、それまでの4学期制から各学期同授業日数の3学期制(60日×3)へと移行しました。4月～6月を春学期、9月～11月を秋学期、12月～3月を冬学期と呼んでいます。

また1999年度には、大阪国際文化中学校・高等学校(OIA)から千里国際学園中等部・高等部(SIS)へ校名変更。同時に、中3以上の授業は一部を除いて「学期完結制」となり、高等部では学期ごとに単位が認定されるようになりました。このため、各学期で履修科目、時間割が変わります。

(★前ページの続き)

*蔵書点検報告

昨年度末、3月14日冬学期最終日の午後から16日の3日間に蔵書点検をしました。今回は、15名の方がボランティアで汗を流してくれました。内訳は、旧中2 1名、中3 5名、高1 5名、高2 3名で、内男子は1名、さらに普段から図書館ボランティアをしてくださっている保護者も1名の参加でした。1日目は、明日から学年旅行の11年生、2日目からは、初日は卒業式だった9年生も参加してくれました。

例年より人数が少なく、1日や半日しか来られない人がほと

んどだったので、全部作業を終えられるかどうか危ぶんでいたのですが、毎年手伝ってくれているベテランが多く、初めて参加した8年や10年生も良く働いてくれて、おかげで、日英合わせて5万9千冊の日英の図書のデータを全て入力し、必要な図書の移動をほぼ終えることができました。丸2日間、びっちり働いてくれた人もいて、たいへん助かりました。本当にどうもありがとうございます。

なお、その結果はまだ整理中で、次回のインターカルチャーで発見図書、行方不明図書リストを発表する予定です。

APAC Theatre & Band Report

APAC Theatre

Kelly Welch

Librarian

During the weekend of March 1-3 a group of seven students from both SIS and OIS had an opportunity to participate in the APAC Theatre Festival held here at school. More than 50 students from Beijing, Manila, Shanghai, Kobe and Seoul traveled to Osaka for a weekend of drama performance workshops with visiting director Mr. David Dunn of Wesley College in Melbourne, Australia. Built around a theme of Food for Thought, students worked with Mr. Dunn to create a demanding ensemble performance piece based upon Theatre XStream, an abstract, stream of consciousness approach to drama. In addition to their creative workload, participants were also able to experience our unique corner of Japan as they hiked up to Minoh Falls.



APAC Band

Akiko Matsumoto

SIS 12 Trumpet

On February 28th, fifteen students gathered at the school entrance early in the morning, when the sun wasn't even up. It was 6:00 AM, and they were tired from having only a few hours of sleep the previous night. However, these students were perfectly happy, for they looked forward to with great excitement, the next couple of days they would be spending in Manila. While loading the bus that would take them to the airport, they knew that what they were about to experience, was going to be spectacular ...

The APAC Band Festival of 2007 was held from February 28th to March 4th at Brent International School in Manila, where talented musicians from six schools assembled to form one large, splendid band. The festival was a truly outstanding opportunity for me and the rest of the participants to improve as instrumentalists, to befriend students from various schools, and to simply let our love for music grow. The APAC Band members from SOIS are as follows:

Flute: Mai Iida (OIS 10), Tomoyo Doi (SIS)

Clarinet: Makiko Fujimoto (OIS 9), Ayaka Sato (OIS 9), Yukiko Imagawa (SIS)
Alto Saxophone: Raymond Terhune (OIS 11), Fumie Watashiba (SIS), Emi Meren (SIS)

Trumpet: Megumi Matsushita (OIS 9), Kei Suzuki (SIS), Akiko Matsumoto (SIS)

Trombone: Isaac Shiffman (OIS 10)

Horn: Mao Miyamoto (SIS), Yoko Nishiki (SIS)

Percussion: Sun-Min Lee (OIS 10)

As the representatives from our school, we gave our best effort to make our five days in Manila a precious and unforgettable experience.

The APAC Band Festival was undoubtedly an extremely fun and educational event, which allowed all of those involved to enjoy great music. Though it did require a great deal of our hard work, there were numerous important things that we learned from Dr. Lawrence R. Sutherland, Director of Bands and Professor of Music at the California State University, who was our guest conductor of this year's event. We spent two whole rehearsal days working with this wonderful, good-humored conductor, who provided us with many clues on how to enhance our musical abilities. He constantly gave his effort to make us better players and to make our final performance magnificent. Our rehearsals that kept us playing for many hours



consumed much of our energy, but it was his passion in music we saw that kept us all motivated, no matter how much our mouths hurt from playing.

As a result of our effort and the support of all directors, our final performance that we gave on March 3rd was a great success. Though the band had a rather difficult time staying together during rehearsals, at this concert we were truly able to unite as one group in which its members felt comfortable playing with each other. We stayed focused, enjoyed each and every second of our performance, and felt proud when we received a great applause from the audience that included our friendly host families. I would say that this was one of the best and most memorable concerts that I have experienced as a music student.

I would like to thank all people who were involved in organizing APAC Band this year. We had an absolutely thrilling experience. Also, I would like to thank Brent International School for hosting the event and all host families who kindly welcomed us into their homes. Finally, thank you Mr. Lindley and Mr. Mori for working so hard with us and for always believing that we were capable of doing our best!

★ APAC とは、Asia Pacific Activities

Conference の略称で、次の学校が加盟しています。< APAC 参加校 > 北京インターナショナル・スクール (ISB: 中国)、上海アメリカン・スクール (SAS: 中国)、ブレント・インターナショナル・スクール・マニラ (Brent: フィリピン)、ソウル・フォーリン・スクール (SFS: 韓国)、カナディアン・アカデミー (CA: 神戸)、千里国際学園 (SIS/OIS: 大阪)

新年度最初の LHR は SIS/OIS 全員でゲーム

Chain Tag (ジョイントアセンブリ)

平尾公美洋

SIS 教頭

記載の写真は SIS/OIS の合同集会 (ジョイントアセンブリ) のスナップショットです。ジョイントアセンブリでは前回から体を使った単純なゲームを取り入れ始めました。ふたつの学校は日常的に交流がありますが、両校の中高生が一同に会する機会はそれほど多くはありません。試みとして、アナウンスのみならず身体的な動きも取り入れた次第です。特に4月は新しい生徒たちへの歓迎の意味が込められています。

このゲームは、英語で「Chain Tag」といい、鬼ごっこの変種みたいなものです。手をつないだ二人のグループから始まり、その二人組みは残りの生徒たちを追いかけタッチします。タッチされた人はその二人と手をつないで三人になります。手をつないだ人数が四人になると二人ずつの二つのグループに分かれます。そして、それぞれの組が再び他の人をタッチしていくのです。その際、ひとつの条件として生徒達は手をつないだ相手の名前を尋ねて知り合いになることが求められます。

SIS/OIS 両校の中高等部をあわせて560名ほどの生徒がいます。始めに手をつないだ生徒を二組用意しました。一組はグラウンドの端に、またもう一組はそれと反対側の端に配しました。この二組が他の生徒たちを追いかけ始めます。当初、数百人が逃げ回ったら時間内に終わるのかな、という不安がありました。楽しい雰囲気の中でほぼ予定通りの時刻に終了しました。その時点まで逃げ切った人にはスナックのプレゼント付で。二組から始まり、数百人をあつという間に飲み込む拡がりの速さは、手をつなぐ生徒数の増加が幾何級数的だからです。いわゆる倍々ゲームです。

倍々ゲームの数の増加は私たちの日常感覚を遙かに越えています。例えば、次のような問題を初めて聞いた人が直感だけで正解に

迫るのは至難の業でしょう。「厚さ 0.1 mm の紙を用意します。まず二つに折ります。次にそれをまた二つに折ります。このように折り重ねていくのですが、これを 50 回続けると紙の厚さはいくらになるでしょう。」という問題です。ここで10秒ほど先を読まずに想像してみてください。ちなみに10回折ると約10cmになります。20回折ると約 100 mにもなります。すでに人の手で折ることは不可能ですが思考実験として折り続けることにします。驚くべきことに 50 回折ったときの紙の厚さは、ほぼ地球と火星の往復距離になります。生徒全員が持っているグラフ電卓を利用すれば、その様子観察することもできます。

ジョイントアセンブリは6年生から12年生まで混じっていて年齢にかなりの幅があります。高学年の生徒にとっては、少々子供っぽい単純なゲームなのですが、生徒達はこのゲームの意図を理解して一生懸命参加してくれました。4月から新しく生まれ変わった人工芝は鮮やかな緑です。ふかふかして思わず走り回るか寝転ぶかボールを蹴るかそんな気持ちにさせられます。その上で躍動する生徒たちの生き生きした姿は新学期の希望を感じさせてくれました。新学期がすべての人にとって実り多い学期になりますように！



陸上競技大会で4名5種目入賞

馬場博史

ランニングクラブ・トライアスロンクラブ顧問、数学科

■ 4/8 武庫川ロード記録会

今年度最初の大会は月例武庫川ロード記録会で幕開けしました。SIS/OIS 生徒・教員と学園関係者十数名が参加。走った後はみんなでお花見を楽しみました。

■ 4/22 吹田市長杯陸上競技大会

学園から SIS/OIS 生徒・保護者・教員 10 名が参加し、うち4名が5種目で入賞しました。

<入賞>

高校男子 1500m 1位 5000m 1位 小澤悠 (SIS11)、高校男子 1500m 2位 春名暢 (SIS11)、高校女子 1500m 3位 山澤友香 (SIS10)、50 才以上男子 3000m 1位 馬場博史 (教員)

<他の完走者>

中学女子 800m 中野華奈江、山本郁子 (以上 SIS9)、Shiori Ito (OIS8)、中学男子 1500m & 3000m Kento Baba (OIS8)、田和良真 (SIS8)、壮年 3000m 中野隆司 (保護者)

■練習日程

ランニングクラブはランニングの練習だけをトライアスロンクラブと一緒にに行います。トライアスロンクラブの練習日程は次のとおりです。月曜・木曜 Run & Swim 16:00-17:30、火曜・金曜 Run & Bike 16:00-17:30、水曜 Run のみ 16:00-17:00。練習は一年中毎日 (授業日) ありますが、一部出られない場合は相談してください。皆さんの入部をお待ちしています。

学園祭テーマは「海」

本年度の学園祭は5月26日（土）に行われます。学園祭は学園祭委員（生徒会役員やボランティアの生徒）と各店の代表者達（店係、美化係、備品係等）により運営されます。

□学園祭テーマ

各店間の統一性を持たせる為に毎年学園祭ではテーマが決めます。各店はテーマに沿った店作りをします。生徒全体からテーマに関する案が集められ、生徒議会で投票により決定されます。今年のテーマは「海」です。クラスやクラブはテーマに沿った店の外観、名前、アクティビティーになるようにします。

□当日のスケジュール

8:45-10:45 エレメンタリーパフォーマンス（シアター）
9:30 学園祭開始 パフォーマンス開始
14:30 学園祭終了、掃除開始。
15:30 掃除終了、クラス解散。
15:30 後夜祭スタート
18:30 後夜祭終了

□準備日程

基本的に4月の1、2週のロングホーム

ルームは委員の選出や店の企画に必要となります。全体としてどのくらい準備期間が必要かは店の内容や各クラスのやり方によりますが、例年、SISの場合は5月のホームルームはすべて準備に当てることが多いようです。

5月4週目はMS生徒会による不思議ウィーク。日替わりのテーマに沿った服装をして楽しめます。学園祭前日は午後2:00に授業を終了し、準備をします。

□学園祭各係

学園祭は生徒会役員を中心とした各係とそのクラス代表者によって組織されません。各係のトップはその係に関連する仕事の責任を負います。質問、要望等がありましたら、各担当者に連絡してください。下記の生徒会メンバーが各係の担当をしますので、質問や問題が起きた際には連絡をとってください。

学園祭トップ 清水 航（SIS12）、ミズサワ・タケヨシ（OIS12）

店係 カン・エイミー（OIS10）

美化係 ニシグチ・ケン（OIS12）

備品係 イイダ・マイ（OIS10）、井上暢

子（SIS12）

デコレーション係 松本亮平（SIS12）、スイート・アリサ（OIS11）

会計 佐々木愛（SIS11年）サンミン・リー（OIS11年）

野外パフォーマンス 井藤航太（SIS12）、リース恵美（SIS12）

□TAX

TAX制度は学校のいろいろな目的の為に各店の収益の5%を納めてもらう制度です。OIS、SIS両校は店の収益の5%を生徒会に納めます。



大阪外大連携授業紹介

教務センター

高等部2年生になったら、放課後に大阪外国語大学の授業を受けることができます。期間は4月第2週頃から7月20日頃まで。週1回開講の授業（1期間につき1つの授業のみ）を履修できます。時間は指定された曜日の16:30～18:00（5時限）または18:10～19:40（6時限）。場所は大阪外大キャンパス（箕面市粟生間谷東8丁目1-1 <http://www.osaka-gaidai.ac.jp/>）。費用は1科目につき5000円程度とテキスト代。対象は4月時点での高等部2年生もしくは3年生。

下にある授業を外大の学生と一緒に受講することができます。更に詳しいシラバス（内容）は生徒インフォメーションセンターでもらうこともできます。これらの授業をきちんと履修した時は千里国際学園高等部の単位（総合科目「文化研究」）として1単位を認定します。

授業には各自で外大のキャンパスに行ってもらわなければならないことが必要となります。本校教員の引率はありません。通学時の万一の事故については通常の登下校時と同様、学校安全会の保険の対象になりますが、交通手段などは各自に任せられます。帰宅時間も遅くなるので、家庭のご理解が必要です。授業では、大学生と同等に扱われ、十分な予習や復習を要求されることもあるので、準備不足などで中途半端にならないようにしっかり計画を立てておきましょう。授業は、本校が夏休みに入った後も続くことにも注意してください。

<講義一覧>

アメリカ史概論、現代中東地域論、現代北欧地域論、英語文学概論、国際政治学概論、アルタイ諸語概論、英語史、日本語教育学概論、現代北欧地域論、統計学、文化史序説、英語国際ビジネスコミュニケーション入門、国際関係概論、イギリス文化概論、日本語学、フランス研究入門、フランス文学概説、地域・文化変容論入門、イスマノアメリカ歴史・文化概論、スペイン歴史・文化概論、英語文学概論、開発・環境基礎ゼミ、こころとからだの科学、英語学概論、中東の言語と歴史文化論、英語学概論

保護者会だより

●「保護者会だより」文責：保護者会 Public Relations Committee
ホームページアドレス <http://www.sispa.jp>

保護者会活動報告・予定

保護者会の活動を次の通り報告いたします。

★各委員会とも、総会資料作成、年度末の残作業、委員会役員の引継ぎ等を行いました。

■Board

3月 各新役員決め 委員会引き継ぎ
4月4日 SIS入学式 SISPA説明
7年委員募集 入学式ティーサービス
4月各日 各委員引き継ぎ
総会に向けての準備
4月26日(木) 10:30～会議室にて
委員顔合わせ会
5月24日(木) 13:30～シアターにて
保護者会総会(予定)

★ 2007 年度保護者会総会のお知らせ

2007年度保護者会総会を下記のとおり開催いたします。ぜひともご参加いただきますようお願いいたします。もしもご欠席の場合には、委任状の提出を宜しくお願いいたします。

2007年度保護者会総会

開催日時 5月24日(木) 午後1時30分より

開催場所 千里国際学園シアター

(保護者会からのおねがい)

*ご出席の皆様は、公共交通機関をご利用下さい。

(千里中央発12:10、13:00 北千里発12:20、13:10の千里国際学園行きのバスがあります。)

多くの保護者の皆様のご出席をお待ちしております。

◎ SISPA 年度末特集 ～この一年を振り返って～

■Board

2006年度Board 一同

SIS保護者会運営に参加して下さった役員の皆様、委員会メンバーの皆様、保護者の皆様、そして陰になり日向になり常に保護者会活動に多大なるご理解とご尽力を注いで下さっている大迫校長、ルイス事務長、あらゆる教職員、関係者の皆様、2006年度一年間、本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

今年度のBoardは、SIS保護者会活動の中のBoardの役割や活動内容を、再度基礎から見直し、合理化し、情報流通化、マニュアル化するという課題に終始しました。昨今、保護者の多くが仕事を持たれていたり、ご本人やご家庭の事情が多様化し、保護者会活動に沢山のエネルギーをさげなくなっています。とはいえ、保護者会活動は子ども達の学校生活、学校教育には欠かせないサポートです。ならば、なるべく少ない労力となるべく有意義で保護者自身も楽しい活動にするための工夫が必要ではないかと考えました。『誰もが気軽にBoard運営ができるよう

に』一日々の活動の中で、これを評価軸にして今年度の活動を進めてきました。一年間を通してBoardメンバー全員が常に同じ方向を向いていられたのは、そのお陰だと感じます。

また、総会資料でもご報告したとおり、保護者会定例会の位置づけの再確認、懸案事項だった後援会費についての決議など、従来の課題についても一通りの形として遺すことができました。これらも、定例会での十分な話し合い、アンケート実施のご協力など、多くの保護者の皆様と一緒に考えて導き出したからこそその結果です。

更に、05年度からの引き続きとして、生徒向けの講演会をシリーズ化し、保護者会が企画運営できたことも特徴的だったといえます。万国共通の「平和」をテーマに、紛争地で命がけで活躍されているジャーナリスト坂本卓さんの紛争現場からの肉声と、国際理解・国際交流の極みであるオリンピック国際審判員であった後藤春日さんのお話と、対極にあるお二人の話を直に聞けました。どちらの講演会でも、講演会後、長い時間生徒達が残って講師

を囲み、一生懸命質問をし、その答えを聞く姿が印象的でした。生徒達が得たものは、決して小さくなくと確信しています。講師の方々からも「SISの生徒さんは本当にすばらしい、こんなに熱意の込めた目で聴いてくれる生徒達の前で講演できて嬉しかった」とメールやお便りを頂き、改めてSISの子ども達を誇りに感じた次第です。そして、このすばらしい講師お二人を保護者会にご推薦下さったのが、SISの教職員の方々であったということも付け加えて、もう一度感謝をお伝えしたいと思います。

私達は、Boardは保護者と委員会と先生方と職員の皆さん、学校外の方々のご縁やご協力を繋ぐパイプ役と考えます。Boardだけでは大きなことはできなくとも、パイプ役を真摯に行うことで、Board自体が行う「こと」よりも何倍も大きな「こと」ができ、ひいては子ども達への大きなサポートとなります。子どもを取り巻く大人同士が仲良く、信頼しあい、無理なく協働することで、更にすばらしい学園になりますように願ってやみません。

■ Hospitality Committee

ホスピタリティ委員会一/同

私達 Hospitality Committee の活動は、メイプルホールでの春冬季コンサート、APAC のランチ・パンケットサービス、今年はありませんでしたが ASP(オールスクールプロダクション)でのティーサービスのお手伝いです。

特に APAC のパンケットサービスは、どんなお料理を子供達が喜んでくれるのか、量は足りているのか、試行錯誤しながら準備します。

でも、子供達が喜んで美味しそうに食べている姿、「ごちそうさまでした」と言ってくれる笑顔は、何よりもやって良かったと思う瞬間です。

委員をしなければ知り合うことの無かった保護者の方達や、改めて SIS という素晴らしい学校を認識することができたことは、大変なことよりも素敵なことを沢山得ることができた一年でした。

パーカー先生、大迫先生、志垣先生、沢山登録して下さったのに、お願いする機会が少なくて申し訳なかったボランティアの皆さん、委員会のメンバー、ホスピタリティに関わって下さった全ての皆様に感謝です。

■ Network Committee

ネットワーク委員会 委員長 島田郁子

委員会の活動は地域名簿を作成・更新していく事が、最大の使命です。06年度は個人情報 considering、地域ネットワークへの参加を希望者のみに変更しました。そのことにより、同じ地域に住みながら名簿に載る人と載らない人が存在し、混乱された方もありました。しかし、希望して地域名簿に登録された方は、積極的に地域親睦会へ参加された方が多かったように思います。

その名簿を元に地域リーダーさんたちは地域の特性を考慮しながら、様々な工夫をして、親睦会を開いてくださいました。年初と年度末に開いた2回の地域リーダーさんの交流会では、たくさん地域リーダーさんに参加いただき、リーダーのみなさんが、自分の地域の交流を大切に考えてくださっているかが分かり、委員一同感動しました。

個人情報保護という枠の中で、保護者の交流を進めていく難しさと大切さを感じました。学年の中での保護者交流もありますが、身近に住む保護者 (OBを含めて) の交流は、学園生活を親子で楽しむためには、有意義な交流だと思います。これからも、地域ネットワークが引き継がれ、大切に感じてくださる方が、増えていく事を願っております。一年間本当にありがとうございました。

■ International Fair Committee

インターナショナルフェア委員長 委員長 相山芳美

インターナショナルフェア委員会初顔合わせの日、委員は7名のスタートでした。インターナショナルフェアの経験がないというメンバーが半分もいて、どんな主旨で、何を目的に何からしていけばいいのかわからないことだらけで、不安一杯のスタートでした。ただそんな不安だらけの中で唯一 OIS の委員だけは昨年に引き続き2年目と言うことで本当に色々な面でサポートして下さいました。OIS の協力がなければ、こんなにスムーズに準備も進まなかったのではと今更ながら感謝の気持ち一杯です。

環境問題にもまず出来ることで身近なことから取り組みたいということになり、今年も飲食用のリユース食器の貸し出しをすることにしました。これもひとえにボランティアの方々の協力なしでは出来ることはありませんでした。吹田のくるくるプラザに向いて今年もリユース食器をお借りしたいと申し出たところ、年々リユース食器の貸し出しが急速に増えているとのことでした。少しずつ意識が高まっているということですね。なんだかうれしくなっていました。まずは意識して行動に移すということが大切なのだなあと感じさせられました。

ブースの出店、エンターテイメント、寄贈品の販売、ウィンドブレイカーの販売、駐車場関係、各プロジェクトチームに分かれてフェア委員もフル回転で動いていましたが、何よりも保護者の方々、先生方、学校関係スタッフの方、本当に大勢の人々にご協力頂きました。SIS・OIS 両校の協力のもとに

インターナショナルフェアが毎年開催され成功しているのだと、とても実感しました。2006年度フェア委員には至らない点多々あり、ご迷惑おかけしましたが皆様のおかげで無事にインターナショナルフェアを終えることができましたことをお礼申し上げます。

■ Public Relations Committee

広報委員会

委員長 吉崎広江

広報委員会というのはその名のとおり、保護者会のいろいろな活動を、会員である保護者の皆さんに少しでも多くお伝えすることが仕事です。そのため、その広報媒体であるホームページとインターカルチャー誌を沢山の皆さんに読んでいただけるよう、それぞれに担当分けをして作業にあたりました。ホームページ担当は、なるべく写真を掲載したり、表現を工夫したりして、わかりやすいものを心がけてくれました。また、インターカルチャー担当は、それぞれが興味のあるテーマを取りあげて、素晴らしい特集記事を作りあげてくれました。メンバー全員で取り組んだ広報活動が、より多くの保護者の皆さんに届いていることを祈っております。

個人的には、今年度はPR委員2年目ということで、あれもやりたいこれもやりたいで始まったのですが、結局思うことの半分もできないままで終わってしまいました。でも、この2年間のPR委員で沢山の方と知り合うことができました。また、家が遠方なためなかなか参加できなかった学校行事にも参加することができ、自分自身にとっても SIS が忘れられない場所になりました。改めてこの機会をいただけたことに心から感謝します。ホームページの何から何まで、ルイス事務長にはお世話になりました。インターカルチャーでは、馬場先生に提出するのがいつも遅れてご迷惑をおかけしました。最後にお詫び申し上げます。

先輩の吉積さんにはいつも心配をおかけし、幼馴染の安達さんをはじめ委員会の皆さんには仕事を押し付けてごめんなさい。でも、そのおかげでフルタイムの仕事や親の世話があっても楽しく委員会活動をすることができまし

た。本当にありがとうございました！
来年度は松本さん、安達さんどうぞ宜しくお願いいたします！

副委員長 安達江津子

一年間、PR 委員として本当に良い経験をさせていただき、ありがとうございました。仕事をもっておりますので、あまり学校に向かなくてもできる委員ということで、PR 委員をお引き受けしたものの、パソコンに詳しいわけでもなく、文章を書くのが得意というわけでもない私に務まるかどうかとても不安でした。おまけに副委員長になってしまった時にはどうしようかと思いましたが、月 1 回の定例会は年間を通して日程がわかっていましたので、予定を入れやすくとても助かりました。他の委員会の活動を知ることができたことや学年を越えていろいろな方と接することができましたのも収穫です。

また私は、インターカルチャーの特集記事「留学・ホームステイ」を担当させていただきましたが、取材や原稿依頼を快く引き受けてくださいました先生方や保護者の皆さま方のおかげで、その記事が活字になった時はとても感動いたしました。

このように仕事をしながら、そしてパソコンや文章を書くことが苦手でも大丈夫！みなさんも PR 委員をしてみませんか。

追記：もう一年 PR 委員をすることになりましたので、今年度は HP の更新をしながら PR 委員の PR をしていきたいと思っております。保護者会の HP も是非ご覧ください！！

松本 由美

一年間、PR 委員として大変世話になりました。優しく面白い吉崎委員長のおかげで、いつも PR 委員のミーティングは、和気藹々としていました。この一年は、看舎さんと二人三脚で保護者会 HP の更新を担当しましたが、看舎さんは、お仕事の忙しい合間を縫って即座に仕事をこなしてくださり、感謝しております。PR のお仕事を通じて、普段なかなかお話できない違う学年の方とも話す機会ができてよかったです。ありがとうございました。。と

いって終わるはずだったのですが、なぜか次年度の PR 委員長になってしまいました。現委員長と違って何の才能もなく不安でいっぱいですが、どうぞよろしくお祈りします。

看舎邦亮

PR 委員として SIS 保護者会ホームページの編集を担当しました。ホームページは初めてでしたが、多くの方々に助けていただきながら、何とか無事終わることができました。

Board や他の委員会の方々からメールで送っていただいた原稿をアップしながら、保護者会活動の幅の広さを実感する毎日でした。他の学年の保護者の方々からのお話をうかがうこともでき、とても貴重な経験をさせていただいたことに感謝しております。

1 年間ありがとうございました。

田丸淳子

PR 委員の仕事って何？そんな疑問から始まった 1 年でした。

不器用な為、助けていただくことばかりで、委員長の吉崎さんをはじめ、PR 委員の皆さんにはお世話になりっぱなし・・・とても感謝しています。

インターカルチャーの特集では、馬場先生のお力添えで、SIS の卒業生の方たちと、連絡を取らせていただき、貴重な体験をお聞かせいただく機会を得ました。また、定例会に出席させていただいたお陰で、SIS の様子が少しずつわかってきました。

もう、子供が卒業してしまったのが少し残念…。往復 4 時間近くもかからなければ、私ももっともっと、SIS に足を運びたかったと思っています。

モスクワから帰国してもうすぐ 2 年になります。あっという間の 2 年でしたが、子供が早く日本の生活に慣れ、学生生活を楽しむ事が出来たのも、SIS で巡り会えた先生方や、お友達のおかげと、親子共に感謝の気持ちでいっぱいです。この紙面をお借りして、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。そして、SIS ファミリーの一員として、これからもどうぞよろしくお祈りいたします！！

山村慎二

PR 委員として、この一年間に取り組んだ仕事に関して報告します。

最初の仕事は、インターカルチャー 10 月号の保護者会だよりの特集記事を書くことでした。内容は私に一任ということだったので、その時一番知りたかった「クラブ活動」を記事にすることにしました。新入生の保護者としては、どんなクラブがあって、どのような活動をしているのか興味があったからです。クラブ担当の先生方から顧問やキャプテンのメールアドレスを教えてください、20 数名の方にクラブ紹介の原稿を依頼しました。お会いしたことも無いのに、ほとんどの方が親切に返事を書いてくださり、この学校を選んで良かったと嬉しくなったのです。

次の仕事は講演会を取材して記事にすることでした。話を聞きながらノートに要点を書きとめていくのは、なかなか難しい仕事です。正確な記事にしなければいけないと思い、結局ルイス事務長にお願いして録音した CD を貸していただいてなんとか切り抜けることが出来ました。

二つの仕事を通して、多くの人の目に触れるような文章を書く難しさを感じましたが、私にとってはすばらしい経験になりました。最後に取材でお世話になった皆さんと支えてくれた PR 委員の仲間に感謝の気持ちを送ります。

山添葉子

2 年前にも一度経験した PR 委員でしたが、2006 年度は何もわからないままに終わってしまった前回と違って自分の知りたいことを積極的に取り上げ、多くの方のご協力の下に出来上がったインターカルチャーの出来ばえに大満足の一年でした。学校まで遠いのを理由についつい足が重たくなる自分を励ましながら定例会やその他の機会にできるだけ参加し、SIS のことがより見えてきたことも私にとって大きな収穫でした。他のコミッティも同じでしょうが、委員のみんなの協力的かつ友好的なあたたかい雰囲気にもとても助けられました。皆様本当にありがとうございました。

自由に生きる

2006年度卒業生保護者
畑 眞理

SISでの最後の卒業式を3月3日に迎えました。高校の卒業式としては3度目になりますが、いつも在校生の送辞には特に感心させられます。今年度も例外ではありません。生き活きた送辞だからなのでしょう。自分の言葉で語ってもらえるからでしょうか。「…この学校には先輩後輩という言葉がないんです…」本当に私も同じ思いでした。3人のこどもがこの学園から卒業し、その10年に渡る学園生活もみていて本当にそう思いました。でも、見て下さい。卒業式には後輩のみなさんはもちろん、卒業生も正装して参加してくれるのです。花束をもって…。卒業証書授与の度にかかる「声援、かけ声」の数々…。どんなバックミュージックより相応しくないでしょうか？たいていfirst name やnickname で呼び合うけれど、先輩組には「さん」が付いていたりして。この学園の自慢の一つは「縦割り」にも中が良いことです。横割りだけでなく縦割りにも仲が良く、もちろんお隣のOISにも通じていて…。「先輩、後輩」なんて言葉は必要のない世界ができていて、そんな学園だと自慢していました。ありがとう！素敵な送辞を今年も！

さて、三人三様の卒業式に参加し、三人三様の進路を選び、それはそれぞれの入学時には想像もできないものでした。映画、法律、ダンス…。きっとこれは、こんな風通しのよい世界で色々な人交流できたことも影響しているだろうと思います。色々な人と出会い、色々なことが経験できて、色々考えることができた…そんな学園生活を想像しています。ところで、私にも皆さんと同年代の頃があったわけですが、わたくしは父に「自由に生きたい」と言い、父は私に「自由に生きることは大変なことだぞ」とだけ答えました。父が何を言いたかったのかは推定になってしまいますが、あれから？十年がすぎ、「自由に生きることは大変なことだというのは、何かにこだわって生きるのは決して簡単なことではない」というようなことを言いたかったのではと考えたりします。‘自由に生きる’ということと反語のようですが、‘何かこだわられるように生きてほしい’そんな気が今の私にはするのです。みなさんはどうお考えでしょうか？

私たちもこの学園で、沢山のひとと出会えて、たくさんのことを考えることができて、私たちにとてもかけがえのない10年だったと、またそうしたいと切に今思っています。860年ころの「ムジカ・エンキリアデス（音楽提要）」という本には次のようにあるそうです。「異なった音が同時に調和して発せられる数的比率は、人間の生き方、人体の動き、そして宇宙の調和を決定する」。この学園、そしてそのエネルギー源である生徒のみなさん、もっともっと世界を広げ、かつ自由に生きていってほしい。ありがとう千里国際学園。



保護者会からのお知らせ



●保護者会室および保護者会の備品の貸し出しを行っています。借りたい方は、yoyaku@sispa.jp宛てに

1. いつからいつまで
2. だれが
3. 何のために
4. 何を

借りたいのかを明記の上、メールにてお申し込みください。追って貸し出し担当よりお返事させていただきます。最新の予約状況は、ホームページの貸し出し予約一覧のコーナーでごらんいただけますので、重複しないかどうかをご確認の上お申し込みください。

保護者会ホームページ

ご覧いただいていますか？

<http://www.sispa.jp>

保護者会ホームページでは、保護者会からのお便り、委員会の活動のようす、学年の動きなどをタイムリーにごらんいただけます。お子さんがうっかりお手紙を手渡すのを忘れていても大丈夫。いつでも最新情報をごらんいただけます。また、色々な保護者会主催行事の様子やOISとの交流行事などのご案内も掲載されています。どうぞみなさまご活用ください。

保護者会における 個人情報の保護に関する方針について

基本方針

1. 個人情報は責任を持って、安全かつ正しく取り扱う。
2. 第三者に漏れないよう管理をする。
3. 利用目的にのみ使用する。
4. 個人情報の取り組みは、継続して見直しを行い、改善を図る。

5～6月行事予定

- 5/2 SIS 授業参観日
 5/10 春季リサイタル 午後 4:00-
 5/17 SIS 学校説明会 午後 1:30-
 5/24 SIS 保護者会 総会 午後 1:30-
 5/26 学園祭
 6/1 SIS/OIS 教員研修日 - 休校
 6/8 高等部 スポーツ表彰式 午後 4:00-
 6/10 Senri Education Expo 午後 1:00-5:00
 6/12 高等部 春季コンサート 午後 6:30-
 (箕面市メイプルホール)

第一回学校説明会のご案内

5月17日(木) 13:30-

- 学園の教育について(大迫校長) 施設案内・個別相談
 ■ ◇受付は全て開始の30分前から始めます。◇生徒・保護者・学校関係者など全ての方を対象としています。
 ■ ◇パンフレット他資料は当日ご参加下さった方全員にお配りします。ただし、一般生徒用募集要項の配布は9月以降になります。

編集後記

新入生とご家族の皆さん、初めまして。SIS 広報センターです。この部署では、広報誌「インターカルチャ」の編集・発行、学園ホームページの作成・更新、教員の授業実践・研究の報告を目的とする「研究紀要」の編集・発行を主な仕事としています。この「インターカルチャ」は各学期に2回、年6回の定期発行で、SIS のさまざまな活動を製本版とウェブ版とでお知らせしています。「保護者会だより」は保護者会広報委員会が企画・取材・記事作成・編集をされています。「保護者会だより」の年度の最終はこの5月号です。一年間お疲れ様でした。そして楽しい記事をありがとうございました。(馬場博史)

今月号表紙の写真は、4月5日に撮影された学園の航空写真です。改修工事後のフィールドを、まだ一度も直接見たことがないという方は、鮮やかな緑色のフィールドをどうぞ Web 版のインターカルチャをご覧ください。学園創立当時の航空写真も残っています。両方を比較してみると、何が一番違うと思われませんか？私は周辺の住宅が増えたこと、体育館東側に病院が建築中であることよりも、フィールド南側(写真ではフィールドのすぐ上)の樹木が良く伸び、良く茂って、とてもきれいな緑が増えたことに驚きました。(合志智子)

インターカルチャへの記事・ご感想等は、e-mail で hbaba@senri.ed.jp までお送り下さい。インターカルチャはバックナンバーも含めて本学園ホームページ www.senri.ed.jp/interculture でもご覧いただけます。また広報センター担当の学園ホームページにつきましてのご意見・ご感想などもお待ちしております。

編集：SIS 広報センター 保護者会だより編集：保護者会広報委員 カット：イラストレーションクラブ生徒

Senri International School Foundation (SISF)

Senri International School (SIS)

Osaka International School (OIS)

4-4-16, Onohara-Nishi, Minoh-shi, Osaka 562-0032, JAPAN

TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055

学校法人千里国際学園 (SISF)

千里国際学園中等部・高等部 (SIS)

大阪インターナショナルスクール (OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号

電話 072-727-5050 FAX 072-727-5055

年間発行予定と主な内容 () は発行時期

春学期	5月号(上旬)	卒業式、入学式、大学等合格状況
	6月号(中旬)	学園祭、教育実習
秋学期	10月号(上旬)	夏の宿泊行事、夏の諸活動報告
	11月号(中旬)	運動会、玄関コンサート
冬学期	2月号(上旬)	オールスクールプロダクション
	3月号(中旬)	入試結果、卒業生へ贈る言葉
他に留学報告、スポーツ結果、各種表彰、授業紹介、生徒会・クラブ活動等		

千里国際学園は、帰国生徒を中心に一般日本人生徒や日本の教育を希望する外国人生徒も受け入れて日本の普通教育を行う千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) と、4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS) とを、同一敷地・校舎内に併設しています。

両校は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等を合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、APAC(Asia Pacific Activities Conference)の公式試合や、近隣のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。このため、校内ではインターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生(日本の小学6年生～中学3年生春学期)をミドルスクール(MS)、9年生～12年生(日本の中学3年生秋学期～高校3年生)をハイスクール(HS)と呼んでいます。